銀友

本郷学園同窓会

Ginyu vol. 50
May 2021

総会のお知らせ

2021年度定期総会は昨年に続き
新型コロナウイルス感染症予防のため中止します

http://本郷学園同窓会.jp & http://www.hongo-gd.net

応援旗　スクールカラーのコバルトブルーにHONGOの頭文字をあしらう
大きさは畳約7枚分（1956年卒業・新澤米次さん撮影）

「銀友」第50号
目　次
Index

p1
ごあいさつ
●本郷学園同窓会 会長
1956年＝昭和31年卒業（高校8回生）
南谷　修
●学校法人本郷学園 理事長
松平　頼昌

p3
本郷学園創立100周年に向けて
●学校法人本郷学園 常務理事
伊藤　隆

p5
投稿
●本郷学園から琵琶湖の空へ
2016年＝平成28年卒業（高校68回生）
中嶋　和志
●製薬会社の研究職として
2009年＝平成21年卒業（高校61回生）
花村　駿
●コロナで変わる社会と僕
1988年＝昭和63年卒業（高校40回生）
漆原　隆浩
●SEIKOをデザインするということ
1983年＝昭和58年卒業（高校35回生）
伊壺　和俊
●本郷高校との不思議な縁
1980年＝昭和55年卒業（高校32回生）
伊東　利晴
●趣味を生かしてのセカンドライフ
1973年＝昭和48年卒業（高校25回生）
千野　邦雄

p29
トピック
●本郷医師の会
1996年＝平成8年卒業（高校48回生）
杉下　和行
本郷医師の会幹事長

p30
2021年度事業計画・予算案

p32
2020年度事業・決算報告

p33
2020年度表彰報告

p35
本郷学園同窓会役員（案）

p39
学園だより
●コロナ禍対策〜この1年を振り返る
本郷中学校・高等学校　校長
佐久間　昭浩
●2021年春大学入学試験合格実績

p41
本郷学園同窓会会費納入者一覧

p45
1980年＝55年卒業生（高校32回生）
「本郷高校55会」
「還暦の集い」のお知らせ

ごあいさつ

本郷学園同窓会
会　長
南谷　修
１９５６年＝昭和３１年卒業
高校８回生

同窓会の皆様、日頃より会の運営にご理解、ご協力を頂き、誠にありがとうございます。

昨年はコロナ禍で世界中が混乱し、経済はもとより人、物、交通など万般にわたる交流が遮断され国際的閉鎖を引き起こしております。更に気候変動が続いており、孤立する国、地域が多くあり、オリンピックも開催できず延期せざるを得なくなりました。

このような世界情勢の中、学校も休校することを含めて困難な年となり、多くの行事もできず通常の授業になるにも時間がかかっております。

その間、学校では教職員が一丸となり生徒第一に創意、工夫をなされ、更なる前進の姿を示しております。

同窓会においては、コロナ禍でもあり、学校への出入りを極力避け、感染の予防に努めて参りました。

このような中でも生徒達の活動、活躍が衰えることはありませんでした。同窓会表彰の対象となる活躍を見ただけでも、それはうなずけます。

スポーツ部門ではラグビー、陸上競技などで活躍しています。文化部門では科学部や社会部の生徒達が、各種の全国大会で、グランプリや奨励賞を受賞するなど立派な成績をあげております。将棋の東京都大会でも準優勝しています。これらの結果、今年度も19件の表彰を行っております。表彰は、生徒達との接触を極力避けるため、校長先生に代行して頂きました。

この1年間、同窓会の活動はほとんど行えておりません。今年度も先が見えない情況が続くと存じます。学校の方針、動向に合わせて活動して参ります。

来年、令和4年に本郷学園創立１００周年を迎えます。学校の記念行事に合わせて協力するよう努めて参りましょう。よろしくお願い致します。

６月の定期総会はコロナ禍の現況を勘案して開催を中止せざるを得ず、はたちの集いも延期させて頂きます。

皆様はいかがお過ごしでしょうか。どうか健康には充分留意し、お元気で益々のご活躍をなされてお過ごし下さい。皆様方のご健勝をお祈り申し上げます。

これからも同窓会をよろしくお願い致します。

ごあいさつ

学校法人 本郷学園
理事長
松平 賴昌

　同窓会の皆様におかれましては、学園の為に多大なご指導とご支援を頂いておりますこと、深く感謝申し上げます。学園としましては、100周年を来年に控えて同窓会の皆様方と一緒にお祝いが出来ます様、諸々準備を進めているところでございます。100周年は、通過点ではありますが、更に次の100年を目指して行けますようご声援の程宜しくお願い致します。

　令和2年度は誰も経験したことのないコロナ禍という困難な1年でした。結果として5月末まで休校になりましたが、当初は先の見えない状況の中、生徒への影響をとても心配しておりました。学校の存在意義を考えさせられ、生徒は学校で集うことの意味は計り知れないものとして再認識されました。通常授業までは時間が掛かりましたが、教職員が一丸となって様々な工夫で授業を行い、結果として大きな創造力が発揮され、困難の中にも大きな前進が生まれましたことは喜ばしいことです。

　この一年、一部行事が行えなかったことは誠に残念ではありますが、生徒の成長を留めることなく、生徒自身も考え抜いた一年だったと思われます。3月15日には卒業式を行いましたが、来賓へのお声かけは断念せざるを得ず、同窓会長からはメッセージを頂戴し代読させて頂き無事終えることが出来ました。

　また、2月にはコロナ禍においての中学入試(今年より高校は募集停止)を行い、2月1日には応募者が500名を超えて本郷中学を第一志望とする児童が着実に増えてきており、同窓会の皆様へも喜ばしいご報告をすることとなりました。完全中高一貫校として走り始めましたが、まだ取り組むべきことは多いこともありますが、新しい学校として生まれ変わっていくことを楽しみにしております。

　さて、来年の100周年に向けた取り組みも準備が進み、ホームページに卒業生からのお祝いのメッセージを掲載し始めており、今後も同窓会の皆様にもお声かけさせて頂き、皆様と100周年のお祝いを共有できるものに仕上げてまいりたいと思います。併せて、募金、記念誌、祝賀会等々を企画しております。募金に於きましては、昨年に同窓会の皆様へご案内をさせて頂いておりますが、ご賛同頂きまして感謝申し上げます。大きな目的であります生徒を短期留学に派遣するという事ですが、少しでも継続的なものになるべく、同窓会の皆様にも引き続きご賛同頂けます様、宜しくお願い申し上げます。

　最後に、同窓会の活動も活発になりますことを祈念しますとともに、学校へのご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

本郷学園創立100周年に向けて

学校法人 本郷学園 常務理事
伊藤 隆

本郷学園ご卒業の皆様におかれましては、日頃より多方面に亘り学園や在校生を温かく見守り、また、ご指導ご支援をいただきまして誠にありがとうございます。

皆様の本郷学園は来年10月には創立100周年を迎えます。学園では平成29年9月に創立100周年記念事業検討委員会を組成し、その後実行委員会に形を変えて、具体案の策定とその実施に向けた準備を本格化しております。

この度は「銀友」の誌面をいただけることになりましたので、現在計画中（一部はすでに実施中）の記念行事につきましてご説明させていただきます。

1. 記念誌の作成

● 100周年を迎えるにあたって、学園の歴史をよりはっきりした形で在校生に伝えようと、校史編纂委員会が平成29年6月に「編纂室だより」創刊号を発行いたしました。その後も継続的に情報収集に努め、歴史に刻まれた事象を可能な限りきめ細かく拾い集めております。100周年に向けてはそれらの事実に基づき、主な出来事を冊子にまとめて発行いたします。また、それと同時に、詳細な事実の記述や数値、写真などをデータの形で保存し、これまでの100年間のみならず今後の継続的なデータ保存にもつなげていくことを計画しております。

2. 専用ホームページで情報発信

● 従来からの学園案内のホームページに加えて100周年関連情報の発信に特定したホームページを令和2年4月より立ち上げて種々の情報を発信しております。中でも各方面でご活躍中の卒業生の皆様より寄せられているお言葉を「OBメッセージ」として掲載しており、ご好評をいただいております。

3. 在校生を対象とした「海外留学支援制度」の創設

● 毎年4~5名の在校生を3か月程度の海外留学へ送り出します。卒業生、在校生保護者、教職員、一般学園関係者の方々を中心に100周年記念事業ご支援の寄付金を募集し（目

標金額1億円）、これにこれまで学園で蓄積してきた基金2億円を加え、その資金運用の果実を使って留学費用を学園から提供します。

- 第1回目として、令和3年度後半には中3～高2生計4名をアメリカ、イギリス、ニュージーランドへ派遣することを計画しており、希望者を募って選考を開始してまいります。

- ご寄付の募集は令和2年4月より開始しておりますが、これまでに648件1，875万円（令和3年3月末現在）のご寄付をお寄せいただいております。

4．記念品作成、贈呈

- 卒業生で、著名な現代アーティスト村上隆氏（昭和55年卒）デザインのマグカップを作成して在校生などに贈呈するとともに、前記寄付金募集に当たり一定金額以上（お一人当たり5万円以上）のご寄付をいただいた方には御礼品として村上氏デザインのマグカップを、又、全員の方々に学園オリジナル100周年記念のクリップを贈呈させていただいております。

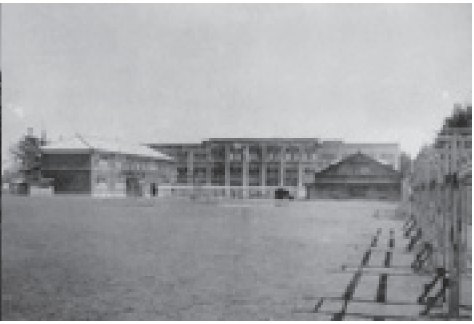
5．記念式典

- 生徒発案・企画で進められる各種発表の場としての記念式典を計画しており、現在その具体的内容を準備中です。

以上が現在計画中乃至は実行中の主な100周年記念事業ですが、今後順次新しい情報をホームページに掲載いたしますので是非ご覧いただけますよう、また、引き続き皆様方のご支援をよろしくお願い致します。

校舎とグラウンド今昔

（現　在）



（開校当時）

投稿

本郷学園から琵琶湖の空へ

2016年＝平成28年卒業
（高校68回生）

中嶋 和志

皆様はじめまして。平成28年卒（高校68回生）の中嶋和志と申します。まずは、私のこれまでの活動について、このような投稿のご機会を頂きありがとうございます。また、同窓会及び本誌の編集や運営をなさっている皆様に、この場をお借りし感謝申し上げます。まさか私がこのような投稿をするとは思いもしませんでしたが、機会を頂きましたので自身の本郷学園時代と大学時代に出場した鳥人間コンテストについて、僭越ながら書かせて頂きます。

本郷学園での日常

卒業から5年近く経ちますが、本郷中学・高校の頃の生活は非常に鮮明に覚えています。当時私は、中学・高校の6年間ラグビー部に所属し、ほとんど部活中心の生活だったと言っても過言ではありません。中学入学時には部活の同期のほとんどが未経験者でしたが、日々練習を重ね、中学3年時には、東京都春季大会で優勝。その後、関東大会や東日本大会へも出場することが出来ました。高校では新たな仲間も加わり、遠征や大会では全国レベルの強豪チームとの試合や大きな舞台も経験させて頂き、監督やコーチ、チームメイトには大変感謝しております。ラグビーの全国予選は開始が遅く、私達も高校3年生の11月まで全力で部活動をしておりました。引退した時には受験目前の状況でしたが、部活も勉強も諦めることなくストイックに続けていく精神は今でも体に残っております。大学時代にも部活の同期と集まる機会は多く、2019年に日本で開催されたラグビーワールドカップや現役の後輩達が全国大会に出場した際には、集まって一緒に観戦をしておりました。

また、クラスメートとの生活も非常に楽しい思い出です。周りには個性的な同級生が多く、ちょっとしたくだらないことでも、皆でよく盛り上がり笑っておりました。学業の面でも皆非常に優秀で、その環境に自身も感化され、部活をやりながらも何とかついていこうと必死でした。部活も勉強も妥協しない本郷の雰

引退試合後の高校ラグビー部同期との写真（手前の一番右が筆者）

囲気はとても好きですし、そのような生徒が多かったのも印象的です。彼らとは今でも交流が深く、昨年には一緒に沖縄旅行にも行きました。会う度に高校時代の同じ話が出てきますが、それでも飽きずに盛り上がってしまうのが不思議です。このように、本郷学園での生活は僕の中で非常に大切な思い出です。

琵琶湖の空へ挑戦した大学生時代

本郷高校卒業後は、一年間の浪人生活を経て、早稲田大学の基幹理工学部に進学致しました。元々宇宙工学に興味があったため、機械科学・航空宇宙学科にて4年間モノづくりの基本を学んだ後、現在早稲田大学大学院の修士課程（機械科学航空宇宙工学専攻）に進学しております。

サークルは、早稲田大学宇宙航空研究会WASAの鳥人間プロジェクトに所属しておりました。皆さん鳥人間コンテストはご存知でしょうか。この大会は毎年7月末に滋賀県の琵琶湖で行われる人力飛行機の飛行距離を競う大会で、テレビでも放映されております。私が所属していた鳥人間プロジェクトは、学生のみで人力飛行機を設計・製作・運用し、鳥人間コンテストへの出場を目指す団体で、私は大学一年生、大学三年生の時に二度出場し、三年生の時には代表も務めさせていただきました。なぜこのような団体に入ったのかというと、それは決してラグビーに対する関心や興味が薄れたという訳では全くなく、メンバー全員で一から飛行機を製作し、大きな大会で飛ばすという鳥人間プロジェクトの活動もまた魅力的だったからです。実は私がこの団体に所属している時にも、本郷学園にお世話になりました。ここでは少しその話もさせて頂きます。

私達が作っていたのは人力飛行機、つまりパイロットを乗せて人間自身が動力として働きかけることで、初めて飛ぶことができる飛行機です。当然人を乗せるものには高い安全性が求められます。例えば、飛行機が一定の高度で飛行する際、上下方向にかかる力は釣り合っています。この時、飛行機の骨組みには重力と釣り合うだけの揚力による負荷がかかっており、もし骨組みがこの力に耐えられず折れてしまった場合、飛行機はバランスを崩し、空中分解してしまいます。こうなるとパイロットの命も危ぶまれるような大事故に繋がってしまう可能性も出てきます。このような事故を起こさない為にも各出場チームは、事前に骨組みの耐久試験である「荷重試験」を行います。荷重試験では、まず翼を上下反転させ、そこに重さを調節したおもりを吊り下げることで、飛行時の状態を地上で再現します。

弊チームも例年大学の実験室を2日間お借りしてこの荷重試験を行っているのですが、私が代表の時は1回目の試験の際、骨組みが荷重に耐えられずに折れてしまいました。こうなると、1から試験の準備をやり直し、再度同様の試験を行う必要があります。2回目の荷重試験も大学の実験室をお借り出来れば問題なかったのですが、当時こちらと実験室のスケジュールが合わず、再度試験を行うための場所の確保に悩まされていました。そこで場所を提供して下

さったのが本郷学園でした。

荷重試験の場所探しに行き詰っていた頃、私は学年主任だった平井先生と、当時数学の先生で現在入試広報部長をされている野村先生に連絡を取りました。いくら卒業生が所属しているとはいえ、本郷学園とはほぼ無縁の団体ですから、私自身はほとんどダメ元で場所の貸出をお願いしました。すると、連絡をとった翌日すぐに上の方に掛け合ってくれるとのご返事を頂きました。正直これには、本当に驚きました。

地下講堂で行われた荷重試験当日の様子

その後、地下講堂を試験場所として提供してくださり、無事試験を行うことができました。当日はお手伝いしてくださった先生方、用務員さん、生徒の皆さんが迅速に対応してくださり大変感謝しております。部員の間でも本郷学園の株は急上昇しておりました。ありがとうございました。

荷重試験を乗り越え機体が完成した後は、調整へと移ります。設計上は完璧でも、いきなり本番という訳にはいきませんので、民間の飛行場をお借りして事前に複数回試験飛行を行います。飛行場は昼間は使用されている為、私達は早朝に試験飛行を行います。そのため前日の夜に大学を出発し、到着後深夜から夜通しで組立・試験飛行を行います。みんなでわいわいと話ながらやるので楽しいですが、いざ機体を飛ばす時は別です。

私達が作っている人力飛行機には地上で停止するためのブレーキがありません。ではどのように止めるかというと、自転車で追走するか、部員たちが全力で走って止めに入ります。ずいぶんアナログじゃないかと笑ってしまうかもしれませんが、機体が止まらず草地に突っ込んでしまった場合、機体が破損してしまう可能性があるので、その時は皆必死です。こうして、楽しさと緊張感を味わいながら試験飛行を終えた後は、いよいよ大会本番を迎えます。

鳥人間コンテストは2日間かけて行

ホンダエアポート（埼玉県桶川市）にて行われた試験飛行の様子

われます。1日目の土曜日は滑空機部門、2日目の日曜日はディスタンス部門となっております。滑空機部門はその名の通り、パイロットがスタート地点のプラットフォームから機体に乗って滑空し、その距離を競う部門で、ディスタンス部門は、計60kmの三角コースをパイロットがプロペラを回すことで推進力を得て飛行し、その飛行距離を競う部門です。

大会には応募すれば誰でも出場できると思っている方も多くいらっしゃいますが、実は厳しい書類選考があります。書類選考で求められるものは、機体全体の設計図と、チームやパイロットのセールスポイントをまとめた企画書です。機体の安全性は勿論、チームが番組にとって魅力的かどうかという点も選考基準になります。

WASAの機体(Canopus)の大会本番の様子

大会当日は過密スケジュールです。私が大学3年生の時に出場した2019年大会は、開催日に台風が直撃し、一日目の滑空機部門は途中で中止。残りのチームは、二日目のディスタンス部門が終わってから飛ばすということになりました。私達のチームは、ディスタンス部門で出場していたのでさほど影響は無かったのですが、中には大会スケジュールの都合で飛ばすことが出来ないチームもあり、1年かけて作ってきた機体を、現地まで来て飛ばせないというのは、間違いなく悔しかったと思います。

また、土曜日に飛ばせた滑空機チームも、強風の影響で機体が煽られ、不本意な結果に終わってしまうことも多々ありました。テレビ放映では、2日間の大会が2時間に圧縮されあっという間ですが、その裏側はこのようにかなり過酷でした。

私達の結果は451・79mでディスタンス部門8位。目標としていた1kmには及びませんでした。本大会では、社会人チームである「BIRDMAN HOUSE伊賀」(DMG森精機)が60km完走で優勝。また日本大学のチームも、学生チームながら38kmという学生記録をたたき出しました。弊チームは大会への出場回数は多いものの、未だ目覚ましい結果は残せておりません。2020年大会はCOVID-19の影響で残念ながら中止になってしまいましたが、後輩達には今後是非チーム記録を塗り替え、強豪チームの仲間入りを果たして欲しいと思います。

拙い文章でしたが、長々と最後までお読み頂きありがとうございました。本稿を通じて皆様が鳥人間コンテストに対する興味を少しでも持って頂ければ幸いです。また、本郷学園の卒業生とは思わぬ所でご縁がありますので、そういった関係を今後も大切にしていきたいと思っております。

投稿

製薬会社の研究職として

2009年＝平成21年卒業
（高校61回生）
花村　駿

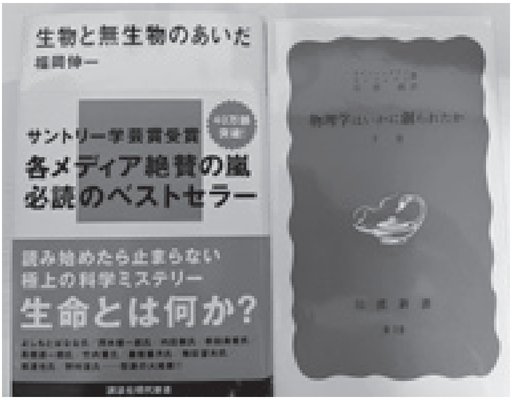
初めまして。二〇〇九年卒の花村駿と申します。私は現在、製薬会社の研究員として働いております。今回、「銀友」に投稿する貴重な機会を頂きましたので、本郷での生活から研究者という道を思い描くようになったきっかけや、今の私の研究内容、そして薬だけでなく、健康全般について述べたいと思います。

学生時代

本郷での生活を振り返ってみると、研究者を目指そうと思ったきっかけとなったのは、高校の授業で勧められた、科学に関する本との出会いだと思います。その中でも特に印象に残っているのは、「生物と無生物のあいだ」（福岡伸一著）、「物理学はいかにして創られたか」（アインシュタイン、インフェルト著）といった本です。

これらの本は、私の世界の見方をまるっきり変えてくれました。科学の視点で世界を見ると、世界は非常に美しいこと、まだ未解明の不思議な現象が広がっており、知的好奇心を満たしてくれる本でした。例えば、相対性理論によると、時間の進み方は観測者によって異なることは、常識からかけ離れた世界を示してくれ、常識や固定観念を打ち壊すことで、科学はこんなに面白いことを見つけるのかと、惹かれていきました。そして、これらの本を通じて、私自身もその道に進みたくなりました。これらの本と出合う機会をくれた、先生方には心より、感謝しております。

ちなみに今は研究職という立場ですが、本郷時代は特に頭が良いわけでもなく成績も良くありませんでした。勿論特進クラスでなかったですし、宿題を忘れることもしばしば、勉強よりも遊びやバスケをしに行っていたような生徒だったかと思います。また、大学受験を意識し始めて、勉強し始めた時にも、クラス分けのテストの際は、わざと点数を低くして、下のクラスで内職したりと天邪鬼な部分もあり、大変に面倒くさい生徒だったように思います。担当してくださった先生方には大変お世話になりました。



高校時代に出会った名著

そんな私ですが、大学に入ってからは、有機化学という学問に興味を持ち、複雑な構造を持つ分子の合成研究や、新しい反応開発などを研究しました。有難いことに大学、大学院で2つの論文を投稿する機会も得られ、研究者としての第一歩を歩めたのかと思います。

製薬業界と研究内容について

さて、ここからは私の現在の仕事の話に移りますが、その前に製薬業界の特殊性について触れたいと思います。昨今、コロナ禍でワクチンが注目を集めておりますが、薬がどのような期間と開発費をかけて世に生み出されているか、ご存知でしょうか?今回の新型コロナワクチンは異常なスピード感で開発されましたが、一般的に全く新しい薬は市場に出るまで、十年以上のスパンと数百億～千億円以上程度の巨額な開発費が掛かっています。

食品などの工業製品はスーパーやコンビニなどで新商品を見る機会も多いですが、なぜ薬だけがこんなにもコストと時間がかかるものなのでしょうか?それは、新薬とは基本的に人類で初めて作り出される物質であり、なおかつ、生体内で重要な反応に関与する物質であるからです。病気に効くということは、人体の特定の場所に影響を与えるものであり、それが本当に安全であるためには、様々な試験をパスしなければなりません。

医薬品開発のステップを簡単に分けると、

①創薬研究（2～3年）：薬の候補化合物を探す、創る段階

②開発研究（3～5年）：薬の候補化合物の薬効や毒性（非臨床とも呼ばれる）、剤形や品質、安定性の検討段階

③臨床試験（3～7年）：実際に治験薬を作り、人での安全性、有効性を調べる段階

④承認・発売（1～2年）：有効性、安全性、品質が認められたのち、厚生労働省に承認申請をする段階

のステップがあります。各段階で数年に及ぶ年月をかけ、さらに研究者だけでなく、医療機関の人々、治験者などの様々な人が協力しあって作られるのが薬なのです。さらに、実際に承認される薬は、約3万化合物に1つだけという、非常に低い成功確率であることも、新薬の開発費を押し上げる要因の一つです。

ちなみに、昨今話題になっているジェネリック医薬品とは、すでに承認された医薬品と同じ物質で、同様に処方され、人体には同等の影響があると確認が取れた医薬品のことです。これは、先発品（一番最初の医薬品）の有効成分の合成の特許などの期限が切れて、他のメーカーが製造することができるようになり、発売されます。

①、②、③の一部を省略できる為（主に臨床試験の大部分を省略できる為）、比較的安価に製造することができます。ただし、医薬品という性質上、承認申請の資料は膨大で、安全で品質の確保された薬を安定供給できることを証明しなければなりません。

さて、ここで私が担当しているの

は、その中でも製剤と呼ばれる研究分野で、先程のステップの②～④の段階で継続的に関わってくるものです。薬というものは、有効な化合物が合成できれば終わりというわけではありません。有効成分をどのように人に投与し、患部に届けるか、また、有効成分の安定性なども考えなければなりません。錠剤で飲むのか、カプセル剤にするのか、あるいは経口投与せずに、患部に塗るタイプにするのか、注射なのかとさまざまな投与形態があります。これを研究するのが、製剤と呼ばれる研究です。

私はその中でも錠剤やカプセル剤などの固形剤を担当しています。候補化合物だけでは、錠剤の形にできないので、他の添加剤を混ぜ、均一化してから錠剤にします。この時に選ぶ添加剤の検討や、候補化合物の安定性の担保も行います。また、一口に錠剤といっても、素錠と呼ばれる表面に何もコーティングのないものや、フィルムでコーティングしてあるもの、口腔内崩壊錠と呼ばれる、水なしで服用できる錠剤等、様々なものがあります。さらに候補化合物が酸性に弱い物質であれば、粒子自体に胃酸で溶けないような特殊なコーティングをしたり、水に溶けにくい薬物であれば、体内に吸収されやすいように、溶けやすくする研究等も行います。

また、それだけではなく、実際に製造する時の方法の確立も大事な仕事内容です。最終的には、誰がいつ、何回作っても、同じ品質のものが作れなければ、医薬品としては承認されません。もちろん、製薬企業もビジネスなので、安く大量に作ることも重要なため、どれだけ簡便に、コストをかけずに作ることも考えます。また、製造途中で万が一、異物や細菌が入った際、それを検知して出荷させないようにする管理や、製造途中でいつもと違った挙動を示すものを出荷させない管理も大切です。

このようなことを考えつつ、スケールアップの検討を行い、製造方法を確立していくことが製剤部門の極めて重要な業務です。さらに、一度承認された製造方法は基本的には変更できません。変更するためには煩雑でその根拠となる資料を作成し、申請を行わなければならないからです。そのため、申請前に十分に検討を行い、医薬品の品質を担保する製造方法を開発することが極めて重要な仕事になってきます。

ところが最近では残念なことに、医薬品の回収や業務停止命令が出

様々な形状の固形剤

ています。製造法が決まっており、なぜ同じ品質のものができる時とできない時があるのでしょうか?

一流の料理人は、その日の気温や湿度、原材料の微妙な違いによって、入れる水分や加熱時間や温度を変えて、同じクオリティのものを提供するといいます。

しかし、医薬品製造においては、一度承認された製法は変えられないのです。いくら同じような原料を用いているとはいえ、原料の一粒一粒が同一であることはありえません。夏か冬に作るのでも、製造室の気温と湿度は違います。そして、作業員も健康状態や集中力も日や時間によって変わることもあるかもしれません。そのような変動要因を認めつつも、同じ品質の医薬品を作ることが、製剤研究者の使命であり、一番に難しいところなのです。

最近の製剤分野では、分析機器の進化とデータの解析により、製造工程の理解が進んでいます。従来は製剤というと職人の経験と勘と検討結果に頼っており、最終的には製品の試験を行って、合格を確認して出荷していました。しかし、昨今は分析機器の進化と統計的手法を組み合わせることで、どの範囲であれば、医薬品の品質が担保できるのかを把握できるようになりつつあります。これらの機器と統計解析の勉強をしつつ、医薬品の研究開発を進めていきたいと思っております。

健康全般について

ここまで、薬がどのように作られるか、その中での研究の内容について書いてきました。薬というものが、これだけの時間と労力、科学の結晶のものであるかの一端でも興味を持っていただければ幸いです。とはいえ、薬があるからといって、健康になれるとは限らず、むしろ薬などに頼りすぎずに健康であることが一番であると思います。

ここからは、健康な生活を送るための、科学的なエビデンスの高い、そして簡単に始めることの出来ることを3つほど紹介していきます。昨今のコロナ禍でストレス対策や健康管理の一助になると幸いです。

まず、圧倒的にエビデンスのあることが、「良好な人間関係」です。寿命を伸ばす要素ランキングを調べた研究※[1]によると、禁煙、禁酒よりも効果が大きいのは「人間関係」なのです。またハーバード大学による80年にも及ぶ追跡調査の結果※[2]でも、人を幸福にし、健康にするのは何よりも「良好な人間関係」であることがわかっています。さらにこの研究では、良い人間関係は脳にも良いことがわかっています。これは、人間が異常に「孤独感」に弱い生物だからです。

人類は原始のサバンナやジャングルを生き抜くために、お互いに助け合いながら暮らしてきました。その結果、孤独に耐えられない生き物に進化してきました。コロナ禍の中、新しい友人や人間関係を一から構築することは難しいかもしれませんが、古くからの友人などと、連絡を取り合ったり、家族と連絡し、食事するなどのことは今でもできるのでないでしょうか?

２つ目に大事なのは、「食事」です。あらゆる食事法やダイエット法が巷にあふれておりますが、流行り物などは科学的なエビデンスが少なく（もっというと科学的とはいえないものばかり）、健康効果が怪しいものがあふれています。アメリカのイエール大学の論文によると※3あらゆる食事法に共通する最重要ポイントは、

①自然のままの素材から作られた食事ほど良い
②野菜が多い食事ほど良い
②肉と魚は品質の良いものを厳選する

ことが大事だといわれています。つまり、カロリーの量よりも加工度の低いものを選ぶのが重要です。あまり神経質になるのも問題ですが、おうち時間が増えた今なら、少しだけでもこのようなものを摂るのも良いのではないでしょうか？

３つ目は、予想通りかもしれませんが「運動」です。一言に運動といっても、世の中には様々な運動法とそのメリットが紹介されています。しかし、毎日健康に暮らすためにやるべきは、歩く事です。世界保健機関（ＷＨＯ）が行った調査※4では、「週に150分のウォーキングで、運動不足の人に比べて早く死ぬ確率が11％減る」といわれています。また、「毎日歩くほど体の痛みが減る」こともわかっています。あらゆる運動がありますが、手軽さと安全性を考えるとウォーキングは最も良いエクササイズなのではないでしょうか。

昨今、体を動かす機会が減ってきている人も多いと思いますが、エレベーターを使わないとか、簡単な買い物は散歩や自転車で行くなどを心がけるだけでも、一日の歩数に換算すると馬鹿に出来ないものになるかと思います。また、近所の公園に出かけて散歩するなども、いい気分転換になると思います。

以上、本郷での経験、現在の研究、健康について、簡単に書いてみました。コロナ禍の中、皆様の健康に少しでも寄与することができれば幸いです。

※1 Holt-Lunstad J, et al. (2010) Social relationships and mortality risk: a meta-analytic review.

※2 Robert Waldinger. What makes a good life? Lessons from the longest study on happiness/ https://www.ted.com/talks/robert_waldinger_what_makes_a_good_life_lessons_from_the_longest_study_on_happiness/transcript?language=en

※3 D.L. Katz, et al. (2015) Can We Say What Diet is Best for Health?

※4 Kelly P, et al. (2014) Systematic review and meta-analysis of reduction in all-cause mortality from walking and cycling and shape of dose response relationship.

投稿

コロナで変わる社会と僕

1988年＝昭和63年卒業
（高校40回生）
漆原 隆浩

前回の銀友49号では誌面の関係で原稿を削除した部分もあり、本号でも原稿を書いてみないかとのご依頼を承りまして、原稿を書くことになりました。

僕は、本郷高校理数科を卒業し、大学でシステム制御工学を学びました。オーディオのエンジニアの夢を叶えるために理数科に入りましたが、その後、父や兄の後を追うように都庁に入りました。今振り返るとこれは、家系の業（ごう）のようなものかもしれません。

本郷の吹奏楽部でトランペットをやり始め、音楽という芸術の分野を志すことになり、さらに三好先生の国語の授業。夏目漱石のこころと中島敦の山月記は僕に衝撃を与えました。大学に入ってもジャズをやりながら、先輩の影響を受けて三島由紀夫や中国の古典など読みました。僕は技術者への夢より社会、人、心というものに惹かれていきました。

コレラと下水道・コロナと下水道

コロナ禍にあり皆さんの人生や生活に大きな変化があったことと思います。前号では、僕の仕事である下水道のことはほとんど触れませんでした。今回新型コロナという疫病が流行っていることもあり、冒頭で少し下水道について触れてみたいと思います。

日本に近代下水道が整備されたのは、コレラの流行によるものです。近代国家へと変貌する日本において、江戸末期から明治初期にかけてコレラが流行しました。人類は今も昔も、飢饉と疫病と戦争の脅威にさらされています。衛生環境が良くない時代に、戦争で亡くなった人と疫病で亡くなった人と、どちらが多いか調べてみました。すると日清戦争や日露戦争で亡くなった人のほとんどが、コレラをはじめとする疫病でした。なんと戦闘で亡くなった人よりも多かったのです。さらに国内でもコレラなどの疫病で亡くなっている人はたくさんいますので、疫病対策が国家の喫緊の課題だったと思います。

このような状況の中、東京に近代下水道の導入が始まったのは、明治17年の神田下水の建設となります。しかし残念ですが、予算の配分が十分でなく、たったの4kmで終了します。コレラはコレラ菌による水系感染症です。政府は、下水道よりもまず飲み水の対策として水道の整備を優先しました。このため本格的な近代下水道の整備は先送りになりました。

話は少しそれますが、僕は近代下水道とは暗渠と処理施設の組合せと考えています。この原稿を書く際に、調べましたが明確な定義が見つかりませんでした。僕は、近代下水道について懐疑的です。なぜかという

と、当然江戸時代にも下水道はありましたから。外国からコレラが持ち込まれなければ、東京はヨーロッパ流儀のお金とエネルギーがかかる社会インフラを必要としなかったのです。

　江戸時代の下水道は安藤広重や鈴木春信の浮世絵に描かれていています。掘割や雨樋、側溝がドラマチックに描かれていますので、是非ご覧ください。そういった絵画の背景から、汚物や排水は当時の人の知恵で農地や生活の中で、再価値の転換をされ使用されていた社会背景がわかります。当時の人は、現代人ほど汚くない水を環境に排水していたのです。そして、地面に落ちた雨が下水となり、混ざって掘割を経由して川に注いでいました。

　さて東京という大都市は、戦後、鉄道と住宅の整備により益々一極集中、発展し、首都圏と呼ばれる大都市を形成します。東京オリンピックを契機に近代下水道が整備され、くみとり便所やドブはなくなり生活環境が改善されました。悪臭を放つ隅田川は、日本初のオリンピック開催に向けた水質改善のため急ピッチで整備されます。私が本郷高校に入る前の隅田川は、川から１００ｍ離れていても、とても臭かったのです。今では護岸にテラスが整備され、家庭排水で泡だらけだった多摩川や神田川には清流に生息する鮎が大量に遡上しています。

　今僕は、さらなる水質改善と省エネルギーの両立や高度成長期に整備したインフラをどうやって更新するか、とてつもない手間と費用をかけて更新するので、長寿命化や強靭化を行うことなどと合わせて、日々考えて仕事をしています。

　さらに毎年上陸する台風、地震や津波、ゲリラ豪雨に対応するため、社会と事業を安定させるため、様々な工夫と努力を行って進めてきました。皮肉なことに疫病から水環境保全そして浸水防除と役割を担ってきた僕の仕事は、今また疫病と戦っています。それが新型コロナです。

コロナで変わる自分

　令和２年４月以降の緊急事態宣言で、コロナ対策と合わせてテレワークやオフピークなどの働き方改革を行いました。ところが現場のプラント運用や工事を止めるわけにはいきませんので、在宅勤務ができる仕事は限られます。当時、今より人の接触は避けるべきと考えられていました。現場や職場で職員は仕事を動かさなければならず、感染者が出た場合、下水道事業に影響が出る大きなプレッシャーとの戦いでした。そのため職員だけでなく、家族の体調管理の徹底、さらに協力会社、工事受注者、下請けの方々まで管理しました。

　ことさら、運転管理を行っている職員が感染すると、事業の継続が困難になるため、徹底した感染予防対策を行っています。疫病から人々を守るために整備して来たはずの下水道事業が、新たな疫病の脅威にさらされている状況なのです。

　僕は、緊急事態宣言が発出される直前の４月１日に異動し、東京の下水道事業の運営を担う、より責任の重い立場になりました。新しい仕事の対応とともにコロナ対応や職員の新しい働き方など経験のないことに

追われました。夜になると脳みそが筋肉痛になって、思考できなくなるような感覚に陥りました。

　皆さんもそうだったと思いますが、僕も毎日非常に重たいプレッシャを受けて生活していました。その時、なぜだか仕事の帰りに、カバンの中に入れたカメラを取り出し、スイッチを入れて職場から駅までに見るものを写真に収めました。僕は限界に来ていたのかもしれません。脳みその筋肉痛で痛くなりました。通常ありえないそんなことも写真を撮ることで和らぎ、人間としての自分が維持されていることがわかりました。

　休日は、平日こなせない仕事をやりに職場に行くこともありましたが、ほぼ家に閉じこもる生活でした。そんな時も、写真家のＹｏｕＴｕｂｅを見ながら撮影した写真の現像をしました。その内容は、プロが今まで絶対に他人に話さないことでした。僕はそれを貪るように見ました。そうやって見ていくと知識も深まり、写真史、美術史の内容があり、非常に興味を持ち始めました。家に閉じこもる生活で、時代の変化を感じながら、自分が目指す表現を考えました。

　このようにして、職場と家の往復をしている生活を続けている中で、地元の写真店がコロナで閉店中に改装し、小さなギャラリーを作ったことを知りました。まちの写真店の心意気への共感と自分の写真への思いが高まっていたのが合わさり、人生初の写真展をやることとしました。夏が一番暑い時期。しかも準備まで1ヶ月もありません。僕は、今まで自分を人間に戻していた作業の成果である新宿周辺の写真を、撮影した場所の昔の地名をテーマとして10枚ピックアップして展示しました。

　写真展には、コロナ禍でしかも暑い中、多くの人が見にきてくれました。その中で銀友45号に執筆されたトランペット奏者の藤井先輩のライブの撮影をしたときに知り合った、田中宗忠さんが見にきてくれました。田中さんは、会社を退職され60歳からジャズフルートを始めて、秋に70歳古希を迎えるので藤井さんのプロデュースで、ライブをやることになったとのこと。ライブの撮影の依頼がありました。自分は写真を始めたばかりだし、プロでないので一瞬悩みましたが、田中さんのフルートと自分の写真に対する思いは、きっと同じだろうとお引き受けしました。田中さんのライブのフォトブックを作成するとともに、田中さんの人生を映す僕の作品とすることを提案しま

吹奏楽部の先輩の藤井さんのライブ

田中さんを写した写真展のポスター

した。いわゆるドキュメンタリー写真です。

村上隆

僕は村上隆さんが本郷の先輩ということは知っていました。でもどんなスゴさがあるのかは知りませんでした。写真から入り、YouTubeや本で美術を勉強しました。その中で村上さんの凄さをまじまじと感じたのは、スーパーフラット、キッチュ、ポップ、ヒスイズムなどのアート界の革新を、一つの作品に盛り込む合体ロボを作っているということです。例えば、工業製品やサービスにイノベーションのてんこ盛りがあるでしょうか?

またさらに、西洋主体の現代アート界において、村上さんが日本の美術の系譜の先端となって体系化していることが凄い。分かりにくいと思いますので、説明すると例えば、経営学で言えば、CSRだとかESGとか、環境や社会に良い経営が今盛んに取り上げられていますが、すでに江戸時代から日本では、近江商人の〝三方よし〟の考えがありました。ところが経営学はアメリカ主体で歴史の浅い学問のため、日本古来の経営について研究されていません。そして、体系化されていないため学問的に系譜がありません。これは日本の美術でも同じような状況です。これを村上さんの作品は、歴史上に突如でてきたものではなく、日本美術にそった系譜の中の革新ということを、西洋社会に認めさせています。

もっと凄いのは日本の美術家の育成です。これは本当に涙ぐましい事をされています。しかし、あまりに村上さんの問題提起が凄すぎて日本社会では大きな反発を得ています。これって凄くないですか!美術界だけでなく、僕は日本の社会の劣化を美術史的感覚で鋭く指摘していると思います。今、米国と中国の間にあって、首相、政党、国民の振る舞いはどうでしょうか?武力でなくて、日本は人が凄いのでバカにして手出ししない方がいい。そう思われる国でしょうかね。バカにして手出ししたのが、明治期の清国やロシアだったと思います。

僕のアートを引き出せ

さて、今の本郷高校には僕がいた理数科はありません。進学校を目指し普通科に絞った結果だと思います。コロナで芸術は、すぐさま人が生きていくために必要でないものの扱いを受けました。でもそれは、僕たちに大きな問題提起をしました。産業が人の物質的な生命の維持に必要なら、芸術は人が生きていく上での心の維持、成長に必要なものと僕は考えます。人間が生きる目標は、良い大学に行くこと、またはよく知られた会社に入ることではなく、よりよく生きることだと思います。

4月から僕は、下水道からオリンピックの仕事をしています。そして、今、僕は美大生になるための入学式に向かう新幹線に乗りながらこの原稿を書いています。5月には写真の個展をまた行います。新型コロナの流行で僕は一回死んだのだと思います。そして、新しい社会ができてくるように、僕も生まれ変わったように思います。多分、よりよく生きるために。

投稿

SEIKOをデザインするということ

1983年＝昭和58年卒業
（高校35回生）
伊壺 和俊

デザイン科

私は1983年に本郷学園デザイン科を卒業しました。同期生にはパリコレクションにも参加され著名なファッションデザイナーの丸山啓太さんや、一時期TV出演などでも活躍されたスピリチャリストの江原啓之さんらがいます。

皆さんの中にはそもそも今や進学校としての名門「本郷にデザイン科があったの?」と思われる方々も多いのではないでしょうか?デザイン科はたった1クラスでしたが当時、都内でデザインを学べる高校は都立工芸高校と本郷学園デザイン科しかありませんでした。

ですからこれからデザインを学ぼうとする者にとっては大変貴重な学び舎であったのです。そして回想すれば、クラスの面々は将来のデザイナーの卵であり、それゆえかなり強いキャラクターの持ち主の集団だったと思います。

数年前に恩師の一人である担任の唐沢正道先生がお亡くなりになった際、お別れ会で旧友たちと再会しました。そこで意外だったのは、卒業後誰しもがデザインの仕事に関わっている訳ではないという現実でした。そう考えると卒業してからSEIKOに入社し今日まで腕時計のデザインを通じてデザインの業界に携わっている私は大変恵まれているのだなぁ、と感じたものでした。今回はそんな私のデザイナー遍歴ともいうべき内容の寄稿を記したいと思います。

進学か就職か・・

今ごろ謙遜しても意味がないのでハッキリ言うと、在学中の私の成績は常にクラスでTOP5に入るものでした。ですから美術大学への進学も考えており、どんな企業が求人に来るか様子を見て進路を決めようと考えていました。ちなみに当時デザイン科の就職先で人気があったのはHONDAでした。しかし車のデザインは大勢のデザイナーによって作り込まれてゆくものであり一人のデザイナーが「この車は私がデザインしました」と言えるものではありません。幸いそれを知っていた私の眼に入ってきたのがSEIKO（当時は第二精工舎外装デザイン部）の求人票でした。「腕時計であれば小さいので全部ひとりでデザインできるかもしれない・・」とSEIKOに興味を持った私は就職を相談する担当の先生にSEIKOの環境について伺いました。

先生が仰るには「2人の先輩が勤めている。SEIKOは今年の求人で一番大きい会社でもあるし、毎年求人を募ってくる会社ではないので今年はチャンスかもね。腕時計は全部一人でデザインするらしいよ。」と教えて頂きました。全部ひとりでデザインできること、というよりも「毎年求人を募集しない一番大きい会社」とい

うフレーズに惹かれた私は美術大学への進学をさっさと諦めてデザイナーとして働ける就職に進路を決めました。

要するに、大学に行ってデザインの勉強を深めるよりも、就職してデザイン部門で働くことで「デザイナー」という肩書を得ることに憧れを持ったのです。

2人の偉大な先輩

成績は問題ない。あとは在学中の作品をSEIKOに見てもらい自分の力量がどう判断されるかだな・・と考えていた私は面談に向けて、見よう見まねではあったものの「腕時計のアイデアスケッチ」を大量に描き面談に臨みました。会議室で多くのSEIKOのデザイナーに囲まれて、将来の指針を決定づけたプレゼンは、今も脳裏に強く焼き付いています。

緊張の面談が無事に終わった後、SEIKOの方から本郷学園デザイン科卒のデザイナーである坂井重雄さんと岩田勉さんをご紹介いただきました。坂井重雄さんこそが本郷学園デザイン科から初めてSEIKOに入社された方であり、坂井先輩のSEIKOでの実績がなければ本郷学園デザイン科にその後の求人募集が来ることもなかったでしょう。坂井先輩の後輩である岩田先輩にしても同様です。そのように考えますとSEIKOでの今の私があるのも、両先輩の活躍があったからこそだと思っています。

岩田先輩は当時、中近東向けの商品のデザインリーダーでした。デザインの難しい自動巻きメカのデザインを一手に担われておられました。腕時計のデザインは細かく繊細であるため、持病の眼の病気を悪化させてしまい現在はSEIKOを離れてしまいましたが、入社以来公私にわたりご指導を賜りましたことは感謝に堪えません。

坂井先輩は今もSEIKOに勤められ、私との師弟関係を築かせて頂いております。坂井先輩は現在SEIKOのライセンスブランドであるISSAY MIYAKE（イッセイ・ミヤケ）のデザインディレクターを務められています。ISSAY MIYAKEの時計は全て坂井先輩と国内海外の著名なデザイナーとのコラボレーションによって生み出さるセンス溢れるデザインコレクションです。皆さん是非ISSAY MIYAKEウオッチをご覧になって下さい。

今となってはどのような形で入社の可否を頂いたか失念してしまいましたが、晴れて1983年4月1日SEIKO（当時は第二精工舎）に入社することができ外装デザイン部に配属となり、デザイナーとしての一歩をあゆむことになりました。

男なのに婦人用時計のデザインを？

前述のように腕時計のデザインは、デザイナーが針やりゅうず、バンドに至るまで全て一人のデザイナーが担当することができます。これは他のプロダクトデザインにはない稀有な開発環境と言えます。ですからその時計1本1本にデザイナーの個性を表現する事が出来ます。

新人デザイナーの目標は「早く自分がデザインした時計が商品化され、店頭に並ぶこと」でした。私も当然そのような目標を掲げていました。それには一日も早く時計のデザインに関わる仕事を覚えなければければなりません。デザイナーとして入社してもこの頃はただ一般の人に比べ

て絵が上手だね、というレベルですからSEIKOのデザイナーとなるための教育と訓練が必要です。

　そのため先輩の下請け業務であるアシスタントからスタートするのです。入社1~2年目はコピーや資料作り、アイデアスケッチの練習、図面の書き方の練習など、雑用から先輩のお手伝いまで、デザイン業務の基礎を徹底的に身に着けさせて頂きました。自分がデザインを起こし、それを先輩方にプレゼンし意見を頂くことが出来るようになったのは3年目に入ったあたりからです。

　思えばこの期間が坂井先輩や岩田先輩をはじめ、SEIKOの多くのデザイナーと接し、デザインに関する様々な御指導を頂いた大変貴重な時期であり、その後のデザイナー伊壺和俊の核を形成した時期であったと言っても、過言ではありません。

　そんな時期に携わっていたチームが「国内SEIKO婦人用時計のデザイン開発チーム」でした。女性に向けての商品開発チームで、時計のデザインの基礎を叩きこまれたのです。今思えば男性なのに女性用の時計もデザインできるデザイナーに成長できたのも、この頃の経験があってのことです。これは今も他のデザイナーにはない私の強みの一つになっています。そしてこのチームでの教育を得て、初めて商品化されたのが「ペンダントウオッチ」でした。まさに女性用ならではの商品でした。当時はさすがに嬉しくて、その商品を自ら池袋西武で購入し、中学校の同級生で仲の良かった女子にプレゼントしました。

ＳＥＩＫＯを代表する高級ペアウオッチ
12万円のペアウオッチでインバウンド他、日本人にも人気のあるコレクション。

今思えば、母親に贈るのが普通ですね。(笑)その後は紳士用のデザインやペアウオッチもデザインできるようになり、SEIKOの高価格帯ブランドDOLCE&EXCELINEに代表されるドレスウオッチを得意とするデザイナーとして、活躍させて頂けるようになりました。商品化されるのが当たり前となり、私のデザインした時計は街のポスターやTVコマーシャルにもなりました。残業や休日出勤も苦にならない、仕事が趣味のように楽しめた20代30代でした。

海外SEIKOで2大ブランドを創る

　SEIKOには様々なデザインチームがあります。数年先を見据えて商品をデザインするチーム、前述の婦人用時計のデザインチームあるいは、輸出向け海外SEIKOのデザインチームなど・・。これらはその時代によって組織変更がなされデザイナーも「クラス換え」が行われてゆき、それぞれがデザイナーとしてのスキルUPを目指してゆきます。

　デザイナーとしての歩みを、婦人用時計のデザインから始めた私の次の転機は「海外SEIKOのデザイン

開発チーム」でした。ここでは「えっ？海外・・英語話せないけど」と一抹の不安を抱えながらのスタートでした。しかしデザインに言葉は関係ありませんでした。絵であるデザインそのものが言葉なのです。海外でのSEIKOのポジションや競合する他社の情報が少なかった私は、社内のマーケティング部門の方々から積極的に情報収集を行いました。デザイナーにはこうした行動も新たなデザインを生み出す為に必要です。日本人でも時計の好みがあるように、海外にも各国に応じた時計の好みがあります。そんな需要も少しずつ勉強しながらデザインを開発してゆきます。

特に印象に残っているのが、アメリカ向けと欧州向けのデザイン開発です。ここで私は海外における2大ブランドを創出することになります。アメリカのCOUTURA（クーチュラ）と欧州のPremier（プルミエ）です。これらは日本の店頭では見かけることは出来ませんが、海外の嗜好を捉えた独特な世界観を持つデザインシリーズとなっています。NY、Paris、London、Milano、Barcelona・・メンバーとの海外出張で何度か足を運び、どんなデザインが望まれているのか、現地のSEIKOスタッフのリクエストによく耳を傾けました。コミュニケーションを充実させ、デザインを何度もやり直して生み出されたこの2大ブランドは、全世界的なヒット商品となりました。そして今やCOUTURAとPremierはSEIKOにおける私のデザインの代名詞になっています。海外SEIKOのデザインを担当することにより、世界の嗜好に触れ、時計のデザインの多様性を感じずにはいられなかった時期でした。

伝統工芸を活かした高級時計のデザインへ

こうした様々な経験を踏まえ2015年より現在まで、SEIKOの誇る高級ブランド「CREDOR」のデザインを手掛けることになりました。CREDORは18KYGやダイアを使い、日本の美意識を優雅に表現した小売価格100万円を超える高級ブランドです。中でも私は七宝や蒔絵、木目金など日本の伝統工芸を駆使したモデルや、複雑機構として知られるトゥールビヨンを搭載した1000万を超える高級メカ時計をデザインし商品化してきました。こうした伝統工芸を用いた商品をデザインできるデザイナーは限られており、今では近年の私の代名詞になるばかりか、高級品開発におけるデザイナーとして、確固たる地位を築くことになりました。その一端は「伊壷高級時計」で検索してみて下さい。

今日、これら高級品はコロナ禍の中にあってはインバウンドの需要は見込めません。しかし国内の富裕層の方々や、いわゆる時計マニアと称される方々より支持を頂き、高い評価を頂いています。

SEIKOは今年、創業140周年を迎えました。世界に誇るSEIKOブランドの高品質はこれからも変わることはないでしょう。その信頼性を纏い独創的で人々の感性に訴えかけるデザインをこれからも創出してゆきたいと思います。今後のSEIKOの発展を担う者として、そして何より本郷学園デザイン科のOBとして恥じない功績を残しつつ、デザイナー人生を歩んでゆきたいと思います。

投稿

本郷高校との不思議な縁

1980年＝昭和55年卒業
（高校32回生）
伊東 利晴

自己紹介

はじめに、本郷高校在学中にお世話になりました先生方、山岳部先輩・同期・後輩の皆さん、そして各学年クラス同輩の皆さんにお礼申し上げます。在学中は厳しくも楽しく学校生活を送れることができました。高校時代に吸収したことが自分のベースになっていることを実感しております。

わたくしは本郷高等学校を１９８０年（昭和55年）に卒業、卒業後41年目を迎えました。法政大学文学部史学科に進学し、その後も35年間にわたり学校法人法政大学の職員として仕事をしてきました。本郷高校在学中は山岳部に所属しておりました。現在は、日本語教師の資格を取得すべく勉強中です。

あらためて高校時代を振り返りますと、当時に学んだいろいろなことが自らの人格形成の礎になっていることをひしひしと感じております。本郷高校での勉学・学校活動を通じさまざまな影響をうけて、自己の成長の糧を与えてもらったと思っております。高校入学までは、勉強ということにまじめに取り組んだ自覚がなく、授業を通じて物事を意識的に理解していこうと前向きになったのは、本郷高校に入学してからでした。基礎知識が欠如していましたので右往左往しましたが、理解することが面白いと未熟ながらにも感じだしました。

高校入学当時は、父親が埼玉県春日部でガソリンスタンドを経営していたこともあり、大きなタンカーに興味がありました。造船技師に憧れがあり、大きなタンカーを作ってアラブから石油を運んで日本を支えたいなどと、世界地図を見ながら楽しんでいました。

授業を受けているうちに、日本史の授業で坂井先生（名前を間違えていましたらすみません）の授業にとても引かれて、歴史に興味をもつようになりました。坂井先生は確か古墳時代を専門にされていたと思います。日本古代国家の成り立ちを朝鮮半島や東アジア情勢との関係をふまえて授業をされていて、日本史・世界史という分断されたものではなく、東アジア情勢のなかの日本古代史という視点を学んだような気がします。

当時、埼玉県行田市の稲荷山古墳から出土した鉄剣の銘文が解読され、「ワカタケル＝雄略天皇」の銘が刻まれ、東日本に畿内大和朝廷の支配が及んでいたことが実証されたことを授業で取り上げて、詳細に説明していただきました。坂井先生は授業でのご自分の話を録音もされていました。古代史研究に真剣にとりくまれていた姿を記憶しています。

新聞の一面にも大きく取り上げられた考古学上の注目される発見だったようです。歴史の授業は興味深く受けていました。

また国語はそれまであまり得意ではなかったのですが、確か岩尾先生か講師の先生の授業で、哲学者・矢内原伊作著『わたしとジャコメッティ』という随筆が教科書にあり、その作品解釈・意見について先生から一定の評価をいただいたことがとても嬉しく、はじめて読書に興味をもった契機であったかもしれません。また教科書を離れて夏目漱石著『こころ』文庫本をテキストに精読した授業は難しくありましたが、登場人物のK、わたし、先生の三人をめぐる展開と心の動きなど小説の心理描写を読み解いていく面白さを味わいました。

本郷高校での国語の授業で読書嫌いが明らかに好ましい方向に向かっていくようになりました。自分の考えを表明して、先生に受けとめていただき、意見を交換しあう。この経験はシンプルなことでしたが、「自分の言葉で話す」ことに、すこし大袈裟ですが眼を開かせてもらったような気がします。問題を解いて正しいか間違っているかという勉強ではなく、自分の考えを作っていく作業の端緒を感じたように思い出します。その後は、すこしずつ読書をするようになり、自分の価値観を作っていくことに大変役立ちました。

また、古川先生だったと思いますが、生物の授業では、遺伝の基礎について勉強したときが大変面白く、生命の仕組みの一端に触れたことが生物の授業を面白くしてくれました。DNA・生命に興味をもったこともよく覚えています。

高校時代を振り返ると授業についていけないことも沢山ありましたが、身に付いた大事なことも結構あるものだなあと、この齢になっても充実感が湧いてきます。

なぜ本郷高校を選んだか

それではここから本題の「本郷高校との不思議な縁」について進めてまいります。今回の同窓会報原稿作成にあたり、本郷高校の志望理由を振り返ってみました。わたくしは当時も現在も東京都杉並区で育ち住んでおりました。杉並区から本郷高校に通学していた生徒はかなり少数派であったと思います。赤羽・川口方面や池袋から東上線や西武池袋線での通学生徒が多く、新宿を経由し京王線を使って通学する生徒は、わたしが知る限りではほぼいませんでした。高校受験時期にわたしの周辺で本郷高校を口にする生徒はいなかったように記憶しています。

特段の志望理由はいまも思いだせませんが、「本郷」の名はわたくしの本籍地であり、親しみを感じていたのかもしれません。本籍地は東京都文京区本郷三丁目です。またわたしの兄弟は3人で、2人の姉がうるさく、こき使われていたこともあり、男子校が「いいかな」と漠然と思っていたような気もします。また体格はまあまあでしたが頑健ではなかったため鍛えることができるかなと想像していました。

自宅の押し入れに、古い錆びついた杖のようなピッケルがあり「槍ヶ岳」

の焼印がされていました。年若く亡くなった祖父が明治生まれながら、山登りが好きだったようで、祖父が使っていたものと思われます。幼少期からその杖を見ていたので山とはどんなところだろうと思っていました。そんな記憶が、本郷高校で山岳部を選んだ動機の一つだったと思います。本郷高校志望の動機は、このようにそれほど強い意志が働いたわけではありませんでした。

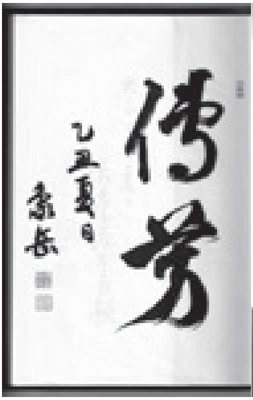
曾祖父が本郷中学創立に尽力

ここから、「不思議な縁」と題したことについて記していきます。曾祖父：伊東竹三郎が現在の本郷高校の前進である旧制本郷中学校の設立にかかわっていたことがわかってきました。私が本郷高校受験の際にはこのことは全く知りませんでした。両親・親戚からもそのような話もありませんでした。ただ、高校3年の秋に母親が病気のため急逝してしまいました。高校から弔意を頂いたお礼に、父が松平校長先生にご挨拶に伺ったようです。その際に後述します曾祖父の追悼集に初代校長：松平賴壽先生の揮毫があることをお話をしたようでした。後日、わたくしが校長先生に、追悼集に綴じられている揮毫をお見せしたところ、コピーをされていたことを憶えています。このときは、曾祖父が旧制本郷中学創立にかかわったことまでは理解しておりませんでした。

私の本籍地については先述しましたが、曾祖父は当時の東京市本郷区春木町に居を構え、伊東商店として商売を営んでいました。輸出用の人力車を製造していました。

少し曾祖父の生い立ちについて述べさせてください。曾祖父：伊東竹三郎は、静岡県浜名湖に近い佐久米の名主の家に文久元（1861）年に生まれました。明治22（1889）年27歳で上京。さまざまな職を経て明治27（1894）年に本郷の地で人力車製造を開始。地域の活動も積極的に実践したようで、本郷小学校児童保護者会、本郷区議会議員、本郷教育会評議員、そして大正12（1923）年財団法人本郷中学校創立と同時に同校の評議員となり、病没まで務めました。曾祖父の没後、『伊東竹三郎翁傳』（大正14年刊・以下、翁傳）が編纂されました。150頁ほどの単行本です。翁傳には、旧制本郷中学校の創立者・理事長および初代校長でいらした伯爵・松平賴壽先生が書を寄せています。翁傳には、「伯爵　松平賴壽閣下題字」とあり、「傳　芳」「乙丑夏日　象岳」と揮毫されています。曾祖父の伝記に寄せて、当時の初代松平校長先生は「傳芳」と書かれました。意味は、美名を後世に残すということのようです。

創立者：松平校長先生から大変名誉ある揮毫を賜りましたことを今回あらためて認識しました。また松平校長先生から曾祖父の葬儀に弔辞を頂いております。全文は、「財団法人本郷中学校評議員伊東竹三郎君病ヲ以テ長逝セラル　嗚呼悲哉　君ハ本財団ノ設立に付き多大ノ功績アリ而シテ將來君ノ熱誠ニ俟ツ所甚ダ多カリシニ忽焉トシテ訃音に接ス痛惜何ソ堪ヘンニ謹ンデ弔辭ヲ呈ス　大正十三年十二月二十七日



松平頼壽初代校長揮毫「傳 芳」
『伊東竹三郎翁傳』所収

『伊東竹三郎翁傳』
大正14（1923）年刊

財団法人本郷中学校　伯爵　松平頼壽」（翁傳掲載）とあります。簡潔ながら信愛の情が読み取れる温かい弔辞と感じられます。

翁傳には、前本郷区長：尾川幾太郎氏から「ありし日の伊東翁」という題で追悼文が寄せられています。そのなかの旧制本郷中学校にかかわることが書かれています。「・・・本郷中學建設の際、伊東さんは、その建築委員の一人であった。そして、最初校舎を鐵筋コンクリート建となし、建築費總額を五十萬円と見積り、その半分を區内の貴族富豪等から、他の半分を區一般から寄附に俟つ計畫で、委員はいづれもその分擔されたところを熱心に寄附金の勸誘に廻つたものである。然るに、震災後一般不況のため、寄附金も最初の見積もりの殆ど半ばにも充たなかった。此處に於て、已むなく最初の計畫を變更して、一先づ木造の校舎を建てることとなった。伊東さんは、最初寄附勸誘に廻られた當時の計畫が變更されたので、今更ながら申譯ないといって、宛らわが事のようにたいへんに頭を悩ましてをられた。・・・・」とあります。

曾祖父は忙しい人力車製造の家業に加え、旧制本郷中学校創立に尽力していたことが窺えます。校歌にある「国の柱の苗木を育つ」人材育成に一人の思いを懐いていたのだろうと、曾祖父の思いを想像しています。

わたしの手許にある『本郷学園60年史1922～1982』資料329頁【歴代役員・評議員一覧】に伊藤竹三郎の名がありました。今回はじめて確認しました。「伊藤」はおそらく「伊東」と思われます。今日でもよくあることです。就任年月日が、大正12（1923）年3月14日、辞任年月日が昭和2年7月4日となっています。この辞任日はなんらかの間違いと思われます。曾祖父・伊東竹三郎は、大正13（1924）年12月25日に病没しています。本郷学園年史に曾祖父の氏名がきちんと掲載されており、複数の資料で曾祖父が本郷学園評議員であったことが確認できました。

曾祖父：伊東竹三郎が旧制本郷中学校創立にかかわった事績を追ってみました。曾孫に当るわたくしが「偶然」にも本郷高等学校で学べたことは、曾祖父の教育への思いを多少なりとも受けとめたことになるのかなと考えます。不思議な縁としか言いようのない繋がりが確認できました。

最後に、ますますの本郷学園の発展と卒業生・在校生の「国の柱」としての活躍を願ってやみません。

投稿

趣味を生かしてのセカンドライフ

1973年＝昭和48年卒業
（高校25回生）

千野 邦雄

本郷高校を1973年（昭和48年）に卒業した25回生の千野邦雄と申します。良泉堂という屋号で古美術商を営んでいます。2015年の新語・流行語大賞にノミネートされた〝刀剣女子〟（日本刀が好きな女子）たちが注目している刀剣を扱う店です。本郷高校から東洋大学に進み、そして警視庁に入りましたが、警視庁勤務を円満退職後の第二の人生の目標を、趣味で集めていた刀を中心に商売できる骨董商をやろう決め、準備をしてきました。

骨董商開業にそなえ刀の勉強

この仕事を始めるには刀の目利きである鑑定眼を養う必要があります。幸いにも警視庁に在職中は本部勤務だったため、日本美術刀剣保存協会に通うことができ、長期に刀の勉強ができたのでした。またその時、指導を頂いた先生方にも恵まれており、とても有意義な時間を過ごせました。

特にお世話になったのが、その頃、協会の専務理事であられた鈴木嘉定先生でした。刀に関してはこの方が第一人者だったのです。その鈴木先生に可愛がって頂き、個人的にもよくご指導頂いたものでした。また刀装具に関して、やはり第一人者でいらっしゃる福士繁雄先生にも可愛がられ、先生のお宅に出入りできるまでに親しくして頂き、現在もさまざまご指導を受けております。

平成4年から平成13年頃まで、保存協会が行っている刀の鑑定学である初心者講座を受講しました。この間にまず「初伝位」という資格を取得し、次に「中伝位」待遇に推薦され、現在は中伝位となり協会の指導員を拝命しております。まだまだ先に「奥伝位待遇」（鑑定士資格者）、「奥伝位」という段階があり、奥が深い刀剣類の鑑定の世界ですが、これからも頑張っていきたいと思っております。これもみな、先生方との出会いがあり、学ぶことができたお蔭であると感謝しております。ここでの人との出会い、つまり先生方との出会いが、私のセカンドライフを決定づけたといっても過言ではありません。何事においても人との出会いが大事であり、そのことを絶えず心掛けて人と接しております。

折れず曲がらずよく切れる日本刀剣は世界で最も優れた刀です。平安、鎌倉、室町、安土桃山、江戸時代を経て、明治、大正、昭和から

現代に至るまで刀鍛冶技術は受けつがれ、現在でも多く職人がおられます。日本の刀は世界でも稀な鍛錬方法であり、製鉄方法もまた特別なのです。日本の製鉄は古来から、たたら製鉄といい、その鉄は玉鋼（たまはがね）といいます。とても貴重なものなのです。その玉鋼を保存協会はたたらで製鉄します。そして刀鍛冶師に配給し素晴らしい刀が現在も多く作られています。

　現代刀の高価なものであれば四、五百万円ぐらいになりますし、古刀である平安、鎌倉、室町時代の刀であれば特に貴重です。また由緒ある刀であれば五億円以上で売買されるものもあります。（例、上杉謙信の佩刀（はいとう）など）また刀の研ぎにおいては、最高峰の先生であれば一寸二、三万円はかかることになります。日本刀の魅力は切れ味が抜群なだけではなく、姿、形の美しさはもちろん、地鉄（じがね）の美しさが素晴らしいのです。さらに刀装具についての優れた技術は、今日では世界の愛好家の垂涎の的になっています。

父から譲られた大小の刀

　私がこの刀剣に魅了されたのは学生時代でした。父から大小の刀を譲られたことが収集趣味の始まりです。それからは、都内の刀剣店や骨董屋さんに出入りし、様々な刀を見せて頂き、見識を高めるべく努力してきました。

　その中のある刀屋さんからお話を聞かせてもらったのがきっかけで、自分でも将来は刀の商売をしようと目標を決めました。店を始めるからには刀を200振りぐらいは揃えなければならないと忠告され、警視庁本部勤務頃から少ない小遣いを貯め、安い物から徐々に買い求め、退職した頃には150振り近くの刀剣類を収集できていました。30歳の頃、同じ職場にいた骨董好きな同僚と親しくなり、お互いに集めた骨董品などを交換するなどし、一般の骨董品の収集も進み、リタイヤ直後には刀以外にも古美術品や骨董品が、すぐにも開店できるほど集まっていたのでした。

店の名「良泉堂」の由来

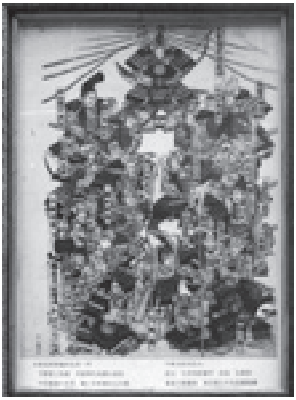
　警視庁を退職して店を開くには、店の屋号を決めなければなりません。念頭にあったのは祖父である千野市太郎の雅号「良泉」でした。地元の池袋警察署の防犯係に古物商許可申請を提出しなければなりませんが、たまたま担当の係長が、私がまだ若き頃に交通捜査課交通鑑識に所属していた時の後輩だったのです。そのようなこともあって、申請もスムーズに済み、思っていたより早く古物商許可が下りたのです。ここでも人との縁とは不思議なものと

感じたものでした。

私が刀に興味をもち、趣味からこの仕事に就けたのは、やはりご先祖が武家であったとの話を幼少期より父母から聞かされていたのが要因だと思います。祖父である千野市太郎は明治35年に板垣退助伯爵及び高木代議士を推戴して発足した盲人医学協会（東京都盲人福祉協会）を立ち上げた一人でした。協会の第三代会長であり、杉山鍼按学校の学校長でもあったようです。この協会の初代会長はかの有名な剣豪、千葉周作のお孫さんである千葉勝太郎先生でした。これらのこともすべて父、千野大市（元公務員）から聞いておりました。

自分の家系が信濃の大名家である諏訪家の一門で、その城代家老職であった千野家の末裔であることも幼少期から教えられていました。千野家は諏訪家の親族でもあります。もっと遡れば、木曽の源氏、源義仲〈木曽義仲〉一門で信濃の豪族、中原兼遠の子供である樋口次郎兼光公の甥が私のご先祖、千野太郎光弘（1184年正月没）なのです。光弘公から数えて、私は32代目となります。

また祖母（旧姓、高橋ゆみ）のご先祖は、千葉館山の戦国大名でもあった里見義實公の孫、里見義尭公（四代当主）の弟、里見尭重（横小路図書助）なのです。その後裔が木更津の金田の名主家、後の高橋長右衛門家でした。この名主家にもたくさんの刀や武具があったと聞いています。



千野太郎光弘の勇姿が左下に描かれている
喜多川歌麿の版画（東京都立中央図書館蔵）

大切な人との出会い

45歳頃、警視庁捜査共助課時代には当時の共助課長や刑事部参事官とも刀を通して親しくなり、仕事面でも親切にしていただき助かったものでした。このお世話になった参事官は剣豪として有名な宮本武蔵の実のお姉さんの子孫だそうです。この方もまた、趣味である刀で縁がつながったと思います。

人は一人では何もできません。多くの人と縁あっての出会い、それらの方々の助けがあってこそ自分があります。常に人との出会いを大切にしているのです。この骨董の仕事をしてみて、特に人との縁を強く感じることが多くあります。何故なのでしょうか。不思議なくらい因縁を感じるのです。

これは私の持論ですが、自分が現在あるのはご先祖さまがあってこそ存在するのであって、ご先祖をいつも大切に思い、人との出会いを大事にしていこうと思っています。多くの良き友人をつくり、いろいろな勉強をし、人生経験を積み重ね、いろいろな趣味をもち、将来の目標を定め、より良い人生を歩んでいこう思う次第です。そしてこのセカンドライフも趣味を通して、楽しく過ごしていくつもりです。

コロナ禍の中、不景気で大変ですが、頑張っていきます。皆さんもコロナ禍を無事乗り越えてください。

トピック

本郷医師の会

本郷医師の会幹事長
杉下　和行
1996年＝平成8年卒業
（高校48回生）

本郷医師の会は平成25年（2013年）に結成された組織です。年に一回の親睦会を毎年11月の最終土曜日に開催しておりました。第八回本郷医師の会を令和2年11月28日に開催予定でしたが、今回は新型コロナウイルスの動向が掴めない状況でしたので、8月の時点で中止を決定致しました。未曾有の感染症の流行に対して、それぞれの会員が自分のできることに全力を尽くしたものと信じております。

さて、新型コロナウイルスに関して何かここで情報提供をすることも考えたのですが、この記事を書いている時と皆様が読まれる時とでは半年以上のずれが生じるため、現時点での最新の情報も陳腐化してしまうため記載は避けます。そこで、今回は最新の医学情報へのアクセス方法についてご説明したいと思います。仮に、新型コロナウイルスの治療法について知りたいと思う時に、皆様はどうされますか。Googleで「新型コロナウイルス 治療法」と検索するかもしれません。試しに検索してみましたところ、厚生労働省のページが掲載されました。これはこれで正しい情報だと思いますが、少し古い情報だと思った方が良いです。医学の共通言語は英語です。本来ですと、英語で書かれた研究論文へのアクセスが求められますが、医学に縁がないと少々難しいかもしれません。そこで、英文論文のまとめサイトのようなものがあったら便利だと思いませんか。それがあるのです。Cochran（コクラン）です。是非一度閲覧してみてはいかがでしょうか。日本語訳も掲載されております。

新型コロナウイルスの収束がまだ見えない中、第八回本郷医師の会の開催については現時点では開催日は未定となっておりますが、組織は健在で毎年会員が増えております。同窓会の皆様にこの場をお借りしてお礼を申し上げたいと思います。この記事を読まれた医師あるいは医学生の方は是非本郷医師の会にご参加下さい。現時点では年会費や義務はなく、自由な組織です。「本郷医師の会」で検索していただくと本郷医師の会のホームページが表示されます。そこに連絡先が記載されておりますのでご連絡いただけましたら幸いです。

杉下和行幹事長

岡本明久会長

2021年度 事業計画案・予算案

2021年4月1日 ～ 2022年3月31日

会員相互の意見と親睦
（定期総会・懇親会、「はたちの集い」は新型コロナウイルス感染症予防のため中止）

● 理事会開催＝日時：10月16日（土）15時。会場：母校1号館2階会議室
● 理事懇親会開催＝日時：10月16日（土）17時。会費＝3,000円。会場：三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内
● 本郷祭（学園文化祭）同窓会展示室（ブース）開設＝9月18日（土）、19日（日）
● 還暦、30歳の集いなど同期会の開催支援

会誌の発行

● 「銀友」50号＝発行日：5月1日。発行部数：15,000部。A5版

母校の後援

● 各分野における全国規模の大会等で活躍した生徒を表彰
● 卒業生全員に記念品贈呈

会員名簿の整理

● 同窓会会員名簿の管理とそれにともなう卒業生などの新会員・会員の住所変更登録。会費納入者・物故者の記録および「銀友」掲載用原稿作成など必要な各種事務処理＝業者に委託

ホームページの管理

● 同窓会行事の告知・開催報告ならびに更新、既刊を含む同窓会誌「銀友」の転載。住所変更受け付け、同期会等の開催告知・報告掲載など

その他の事業

● 学園教職員との懇親会開催
● 卒業式、体育祭など学校行事への役員代表の出席、参観

会の運営

● 運営委員会開催日時：**（4、5、6月は中止）**7月17日（土）15時、9月4日（土）15時、10月16日（土）13時、11月20日（土）15時、12月18日（土）15時、1月15日（土）15時、2月19日（土）15時、3月19日（土）15時。会場：いずれも母校会議室
● 「はたちの集い」（第15回。2020＝令和2年3月卒業生＜高校72回生＞対象）実行委員会開催＝日時：2月19日（土）13時。会場：母校会議室
● 「はたちの集い」（第17回。2022年令和4年3月卒業生＜高校74回生＞対象）実行委員会結成：3月15日（火）正午。母校会議室

同窓会からのお願い

年会費納入に是非ともご協力ください　一口：2,000円以上

同窓会の運営はすべて皆様の会費で行っております。

振込取扱票を同封いたしました。
インターネットバンキングを含む銀行振り込みも可能です。その際は会員番号（振込取扱票に印字してあるお名前の下の８桁の数字）か、氏名と卒業年（昭和はS、平成はH、令和はRと表記してください）を明記してください。

銀行口座：三菱 UFJ 銀行駒込支店　普通口座 0821142　本郷学園同窓会

2021年度収支予算案

2021年4月1日～2022年3月31日

（単位：円）

科　目	収　入	科　目	支　出
前年度繰越金	4,750,173	総会（0回）、理事会（1回）開催	150,000
新卒者同窓会入会金	3,000,000	資料作成費	50,000
同窓会年会費	2,000,000	懇親会費	100,000
はたちの集い	400,000	会誌発行費（15,000部）	2,950,000
会費	150,000	銀友制作費	
学校側負担金	250,000	宛名印刷費	
懇親会会費	100,000	ラッピング費	
理事会	100,000	発送費	
総会	0	編集諸経費	
雑収入	0	行事部門	1,850,000
		はたちの集い	700,000
		本郷祭同窓会出展費	250,000
		同窓会開催支援費（活性化）	100,000
		活躍した生徒への激励費	500,000
		卒業生記念品費	150,000
		学園懇親会費	150,000
		会員名簿保守管理費	250,000
		ホームページ年間契約料	70,000
		運営委員会交通費補助	200,000
		事務費	100,000
		備品費	
		消耗品費	
		資料作成費	
		通信費	
		雑費	
		支出合計	5,570,000
		次年度繰越金	4,680,173
合　計	10,250,173	合　計	10,250,173

2020年度 事業報告

2020年4月1日 ～ 2021年3月31日
（下記の項目以外は新型コロナウイルス感染症予防のため中止）

会誌の発行

●「銀友」49号＝発行日：5月1日。発行部数：15,000部。A5版

母校の後援

●各分野における全国規模の大会等で活躍した生徒108人(19件)を表彰

●卒業生全員329人に記念品としてパスポートケースを学園ならびに父母の会と共同で贈呈

会員名簿の整理

●同窓会会員名簿の管理とそれにともなう卒業生などの新会員・会員の住所変更登録。会費納入者・物故者の記録および「銀友」掲載用の原稿作成など必要な各種事務処理＝業者に委託

ホームページの管理

●同窓会行事の告知・開催報告ならびに更新。既刊を含む同窓会誌「銀友」の転載。住所変更受け付け、同期会等の開催告知・報告掲載など。

会の運営

●運営委員会開催＝日時：10月17日(土)15時、12月19日(土)15時半(会場：いずれも母校会議室)、3月27日(土)正午(会場：東洋文庫オリエントカフェ)

●「はたちの集い」(第16回。2021年＝令和3年3月卒業生＜高校73回生＞対象)実行委員会結成＝3月15日(月)。文書で通知

2020年度収支決算報告書

2020年4月1日～2021年3月31日　（単位：円）

科目	収入	科目	支出
前年度繰越金	3,121,846	総会(0回)、理事会(0回)開催	0
新卒者同窓会入会金	3,290,000	資料作成費	0
同窓会年会費	2,390,000	懇親会費	0
はたちの集い	0	会誌発行費（15,000部）	2,928,667
会費		銀友制作費	1,459,035
学園側負担金		宛名印刷費	146,930
本郷祭同窓会懇親会会費	0	ラッピング費	260,385
懇親会会費	0	発送費	1,017,247
理事会		編集諸経費	45,070
総会		行事部門	635,580
雑収入	0	はたちの集い	0
		本郷祭同窓会出展費	0
		同期会開催支援費（活性化）	0
		活躍した生徒への激励費	450,000
		卒業生記念品費	164,940
		学園懇親会費	20,640
		会員名簿保守管理費	274,161
		ホームページ年間契約料	68,837
		運営委員会交通費補助	40,000
		事務費	104,428
		備品費	0
		消耗品費	20,920
		資料作成費	0
		通信費	74,015
		雑費	9,493
		支出合計	4,051,673
		次年度繰越金	4,750,173
合計	8,801,846	合計	8,801,846

預貯金・現金明細

（単位：円）

銀行・他	預貯金残高	定期預金	次期繰越金
三菱UFJ銀行	4,626,649	0	
郵貯銀行	74,972	0	
現金	48,552		
合計	4,750,173	0	4,750,173

収入の部及び支出の部について、各科目ごとに伝票・領収書等の帳票類を精査したところ、それぞれ適正に誤りなく仕訳され、整理されていた。また、期末での現金残高及び金融機関への預金残高も相違なく確認した。したがって、２０２０年度の収支決算は公正かつ妥当なものであると認め、ここに報告する。

２０２１年４月19日　監事　木塚順夫　熊木宏治

2020年度　表彰報告

各分野における全国規模の大会等で活躍した生徒108人(19件)を表彰

1. 第16回日本物理学会Jr．セッションに出場し研究題目「キャップに働く揚力についての考察」が書類審査を通過し発表されたものと認定される(＜高校＞小林洵、作田雄一朗、夏目一樹君)

2. 第16回日本物理学会Jr．セッションに出場し研究題目「コップから流れる水の形　第3報」が書類審査を通過し発表されたものと認定される(＜高校＞岡野修平君＜中学＞高橋礼君)

3. 第16回日本物理学会Jr．セッションに出場し研究題目「ミルククラウンについての研究」が書類審査を通過し発表されたものと認定される(＜高校＞岡慎一郎、江花一輝、齋藤奏良君)

4. 第16回全国物理コンテスト物理チャレンジ2020第2チャレンジに出場(＜高校＞岡野修平、小林洵君)

以上10人(4件)9月19日表彰

5. 第百回全国高等学校ラグビーフットボール大会の東京都第一地区予選準優勝に貢献(梶原岳人、渡邉琉斗、臼井響、中谷波一土、原田琉宇、森雄琉、村田翔平、吉村隆志、笠原凌大、佐々木柊、鈴木陸、上野春馬、小島慎太郎、松永大輝、岡村圭悟、榊原旺介、新井裕介、稲垣堅斗、鈴木寛征、關田久蔵、渡邊勇太、鈴木滉平、畠廉汰郎、内田拓見、大津馨士郎、立花智紀、土屋翔夢、石川智大、岩波虎、梶原晴葵、中川剛郎、福井悠雅、清末遼一郎、中村賢亮、大畠拓真、田中明、堂前薫、青木晟時、川名慶征、柳下雄吾、髙木桜輔、鈴木志晟、関康輔、津久井裕士、廣里大輔、岩田健士朗ウォーレン、田中健士郎、木下凌吾、古野間大河、齊藤次元、鶴田俊介、横田仁、大塚大和、清野慧、田中玄樹、三崎晴人、伊東亮資、川合皓大、嶋津湊人、中嶋悠人、矢井堅二朗、塩田蒼大、長谷英二君)

6. 第29回全国高等学校将棋新人大会の東京地区予選個人戦で準優勝し同大会関東大会ならびに全国大会に出場(増田淳哉君)

7. 第66回全日本通信陸上競技東京都大会の中学三年男子100mで全国大会参加レベルの記録で8位に(遠藤渓一郎君)

以上65人(3件)12月12日表彰

8．International Trade Challenge（ITC）2020世界大会に出場（＜高校＞赤澤侑、栗山慧三君）

9．観光甲子園２０２０「訪日観光部門」全国大会決勝に出場しベスト６に（＜高校＞菊谷泰杜、髙荷洸星、山崎誠悟君）

10．観光甲子園２０２０「ハワイ部門」全国大会決勝に出場しグランプリを受賞（＜高校＞田中青空、瀬尾俊一朗君）

11．キャリア甲子園２０２０「バイエル部門」全国大会決勝に出場しベスト８に（＜高校＞栗山慧三、田中青空、瀬尾俊一朗、大場遥也君）

12．キャリア甲子園２０２０「生命保険協会部門」全国大会決勝に出場しベスト８に（＜高校＞赤澤侑、溝部昂太郎、林圭一、菊谷泰杜君）

13．キャリア甲子園２０１９「キャノン部門」で優勝し全国大会決勝に出場（＜高校＞大場遥也、栗山慧三、田中青空、瀬尾俊一朗君）

14．未来ドラフト２０２０～私と難民がつながるアイデア・コンペティション～全国大会決勝に出場しベスト８に（＜高校＞栗山慧三、田中青空、溝部昂太郎、瀬尾俊一朗君）

15．Social Innovation Relay（SIR）2020全国大会において「『視聴障碍者のための地磁気を使った駅構内案内アプリ』の提案」の応募テーマで優勝し世界大会に出場（＜高校＞栗山慧三、山崎誠悟君）

以上25人（8件）3月15日表彰

16．第17回日本物理学会Ｊｒ．セッションに「コップから流れる水の形　第４報」の研究題目で出場（＜中学＞高橋礼、野本峻平、山口慶太郎君）

17．第17回日本物理学会Ｊｒ．セッションに「ミルククラウンのあとに発生する水柱の研究」の研究題目で出場（＜高校＞岡慎一郎君）

18．第17回日本物理学会Ｊｒ．セッションに「クラドニ図形と固有振動数について」の研究題目で出場し奨励賞を受賞（＜高校＞赤澤佳、堀田悠真君）

19．第17回日本物理学会Ｊｒ．セッションに「リニアモーターカーにおける磁束密度と最も良い電流効率の関係」の研究題目で出場（＜高校＞東郷斗夢、武藤優太郎君）

以上８人（４件）３月30日表彰

本郷学園同窓会役員

任期：2022 年度定期総会まで
（任期満了による新役員を選出する2021 年度定期総会が中止となったため会則第十条三項により次期選出日まで任務を行う）

役職	氏名	卒業年	卒業回期
名誉会長			
	松平頼昌	（学園理事長）	
会長・理事			
	南谷　修	1956（昭和 31）年	高校 8
副会長・理事			
	秋元幹夫	1955（昭和 30）年	高校 7
	小室能広	1956（昭和 31）年	高校 8
	市倉洋一	1960（昭和 35）年	高校 12
	山際幸雄	1966（昭和 41）年	高校 18
監事			
	木塚順夫	1956（昭和 31）年	高校 8
	熊木宏治	1960（昭和 35）年	高校 12
顧問			
	佐久間昭浩	（校長）	
	山内英夫	1951（昭和 26）年	高校 3
運営委員・理事			
	新澤米次	1956（昭和 31）年	高校 8
	井上栄三郎	1958（昭和 33）年	高校 10
	竹村義教	1960（昭和 35）年	高校 12
	梶　徳治	1968（昭和 43）年	高校 20
	赤井健郎	1970（昭和 45）年	高校 22
	野田悠二	1972（昭和 47）年	高校 24
	千野邦雄	1973（昭和 48）年	高校 25
	石井聖一	1973（昭和 48）年	高校 25
	立入健司	1974（昭和 49）年	高校 26
	泉　昇一	1977（昭和 52）年	高校 29
	米澤　潤	1980（昭和 55）年	高校 32
	野口貴洋	1983（昭和 58）年	高校 35
	竹野谷茂	1983（昭和 58）年	高校 35
	佐々木晋一	1985（昭和 60）年	高校 37
理事			
	野木惣市	1945（昭和 20）年	中学 19
	地曳秀雄	1951（昭和 26）年	高校 3
	津久田愛之助	1954（昭和 29）年	高校 6
	渡辺昭義	1954（昭和 29）年	高校 6
	岡本信也	1958（昭和 33）年	高校 10
	久保國男	1960（昭和 35）年	高校 12
	高田隆義	1963（昭和 38）年	高校 15
	小倉義雄	1966（昭和 41）年	高校 18
	宮沢正喜	1966（昭和 41）年	高校 18

役職	氏名	卒業年	卒業回期
	関塚正治	1968（昭和 43）年	高校 20
	内山正敏	1968（昭和 43）年	高校 20
	中田守喜	1969（昭和 44）年	高校 21
	堀井貞夫	1969（昭和 44）年	高校 21
	染谷幸雄	1970（昭和 45）年	高校 22
	砂泊照男	1971（昭和 46）年	高校 23
	押田松児	1971（昭和 46）年	高校 23
	小堀義光	1971（昭和 46）年	高校 23
	田中良一	1972（昭和 47）年	高校 24
	中嶋健至	1973（昭和 48）年	高校 25
	平野隆之	1974（昭和 49）年	高校 26
	鈴木利一	1975（昭和 50）年	高校 27
	大蔵利文	1976（昭和 51）年	高校 28
	岡野智彦	1976（昭和 51）年	高校 28
	神谷秀行	1976（昭和 51）年	高校 28
	川俣　弘	1976（昭和 51）年	高校 28
	馬島善宏	1976（昭和 51）年	高校 28
	塚本雅一	1977（昭和 52）年	高校 29
	鵜坂宏文	1977（昭和 52）年	高校 29
	松本伸行	1980（昭和 55）年	高校 32
	清水一郎	1980（昭和 55）年	高校 32
	小池武次	1983（昭和 58）年	高校 35
	岡本明久	1988（昭和 63）年	高校 40
	移川真男	1990（平成 2）年	高校 42
	下村大樹	1993（平成 5）年	高校 45
	佐藤憲一	1993（平成 5）年	高校 45
	野村竜太	1994（平成 6）年	高校 46
	杉下和行	1996（平成 8) 年	高校 48
	薄井健吾	1997（平成 9）年	高校 49
	池田貴生	2005（平成 17）年	高校 57
	宮川元	2005（平成 17）年	高校 57
	石川広明	2006（平成 18）年	高校 58
	永瀬智也	2006（平成 18）年	高校 58
	關田宗範	2011（平成 23）年	高校 63
	北野史浩	2013（平成 25）年	高校 65
	田口雄飛	2013（平成 25）年	高校 65
	増本洋行	2015（平成 27）年	高校 67
	立花光陽	2017（平成 29）年	高校 69
	伊藤瑞貴	2017（平成 29）年	高校 69
	畠中晃平	2017（平成 29）年	高校 69

コロナ禍対策〜この1年を振り返る

本郷中学校・高等学校
校長 佐久間 昭浩

戦争にも例えられる新型コロナウイルス感染症ですが、学校における対応に関しましても過去には全く経験のないことばかりで、戦争という言葉を用いてもそれほど大げさではない、というのが今の率直な感想です。2020年度はまさに新型コロナウイルスに翻弄された一年となりましたが、同窓会誌におきまして貴重な誌面を頂戴いたしましたので、この場をお借りして本郷の一年を振り返ってみたいと思います。

まずこのウイルスが我々の知るところとなったのは昨年2月初めのダイヤモンド・プリンセス号内での感染のニュースによるところが大きいと思いますが、このころはまだテレビの中での出来事であり、「隣家の火事」という感覚は全くありませんでした。

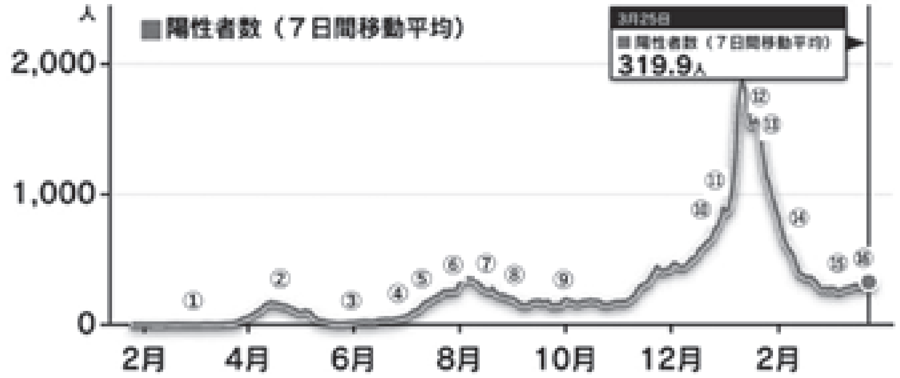
この時点では3週間後（2月25日）に予定されている「中学合唱コンクール」の実施の有無に関して頭を悩ますことになるとは想像すらしておりませんでしたので、新型コロナウイルスの影響がいかに我々の想像を超えるスピードで世の中に広まっていったのかということがわかります。幸いなことに「合唱コンクール」は様々なコロナ対策を施したうえで何とか実施することができましたが、その間も世の中のコロナ感染拡大は続き、直後の2月27日には「3月2日からの休校」措置決定の判断をせざるを得ない状況となっていました。

現在ではこの一年間の様々な対応等で感染予防に対する知識がかなり深まりましたので、「休校」という判断をしたことに対し多少の疑問は残りますが、この時はとにかく未知のウイルスに対する恐怖が非常に大きく、大げさではなく「生徒とその家族を守るためにはこの方法しかない」という思いで「休校」という選択肢を選びました。ただ、皆さんもご存知のように2月27日の夕刻に安倍元首相から全国小中高における3月2日からの臨時休校要請が出され、偶然ではありますが、この時の「休校」措置が「学校の決定」という形ではなく、「国からの要請」という形になりましたので、ほっとしたというのが正直な気持ちです。

休校が決定してから後のことはとにかく初めてのことの連続で、いつどのような対応をしたのかは、この一年間で生徒や保護者に配付したプリント等を時間順に追っていかないとほとんど分からない状態です。本来でしたら、その一つ一つをご説明させていただきたいところですが、誌面の都合上ここでは細部の説明は省略させていただきます。

その代わりに、学校の様子を容易にイメージしていただけるよう、その時の感染状況によって授業形態等をどのように変えてきたのかを中心に

① 東京都 新たな感染者数（陽性者数）



東京都新型コロナウイルス感染症サイトより　3月25日までの情報を表示（注）

この一年を振り返りたいと思います。

（注）参考URL
特設サイト新型コロナウイルス、
https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/number-tokyo/monitoring.html
令和３年３月25日参照

※①～⑯の番号は引用者によります。

※以下の①～⑯は上記資料の中にある番号（時期）と対応しています。

①３月２日（月）～
３月２日（月）より休校。この日から行われる予定だった期末考査はすべて中止。高校卒業式は４回に分けて実施。修了式・中学卒業式は放送にて実施。

②休校期間（春休み～５月30日（土））
４月当初は「教科書や課題プリントを各家庭に郵送」して生徒は自宅で自習。しかしながら、授業再開まで時間を要することがわかり、全校生徒にグーグルのアカウントを配付。これによりネットを通して家庭（生徒）との連絡が可能となる。その後、ネットで授業動画等を配信した。

③５月31日（日）～
５月31日（日）と６月１日（月）に中高入学式をそれぞれ４回に分けて実施（新入生登校）。６月２日（火）より生徒登校再開。学年ごとに始業式を放送にて実施。６月３日（水）より授業開始（※分散登校）。

※出席番号が奇数番の生徒に対し１～３限目の授業を午前中に実施。その後入れ替わりで、出席番号偶数番の生徒に対し４～６限目の授業を午後に実施。これを１週間続け、その後の１週間は逆のパターンを実施。これにより２週間で１週分の授業を受けることになる。

④７月１日（水）～
「一斉登校」開始。午前中のみで45分×５時限の授業を実施。ク

ラブ活動再開。クラスの仲間全員で教室に集合することができたのは7月1日が初めて。（始業式は教室ではなく体育館等に集合したため。）

⑤7月8日（水）～
35分×6時限・午前中授業実施。

⑥7月31日（金）1学期終業式（放送にて実施）
8月1日（土）～8月16日（日）
夏休み

⑦8月17日（月）2学期始業式（放送にて実施）
8月18日（火）～35分×6時限・午前中授業実施。

⑧8月31日（月）～
45分×6時限で午後の授業も再開。これに伴い昼食も再開。

⑨10月2日（金）～
50分×6時限授業でほぼ平常通りの学校生活に戻る。平常時との違いは最終下校時刻の繰り上げのみ。（中学：17時30分、高校：18時30分／平常時は中学：18時00分、高校：19時00分）

⑩12月19日（土）2学期終業式（放送にて実施）

⑪12月21日（月）～
クラブ活動再停止（3月10日（水）まで）。

⑫1月8日（金）3学期始業式（放送にて実施）

⑬1月12日（火）～
45分×5時限・午前中授業実施。

⑭2月15日（月）～
50分×6時限授業でほぼ平常通り。ただし、クラブ活動の停止は継続。

⑮3月11日（木）～
クラブ活動再開。

⑯3月15日（月）高校卒業式
（3回に分けて講堂にて実施）
3月19日（金）修了式（放送にて実施）・中学卒業式（2回に分けて講堂にて実施）

以上がこの一年間の大まかな流れとなりますが、紹介させていただいた通り、クラブ活動を含めほぼ平常通りの学校生活を送ることができたのは10月から12月半ばの2カ月ほどしかなく、とにかく暗中模索の一年間でした。解のない問題と向き合うことの難しさを日々感じておりましたが、そのような状況のなかでもマイナス面ばかりではなかったということをここで付記させていただきます。

具体例を挙げますと、例えば、校内ICT化が前進したのはこのコロナ禍ゆえのことだったと思います。このことについては数年前にも検討をしたことがありましたが、その時には校内のICT化によって起こるかもしれない生活指導上の問題点等（学校内におけるデバイスの不正使用やSNSでのトラブルなど）が検討事項の中心となっており、ICT化に対してなかなか前向きになることができませんでした。「なくても特に困ることはないし、導入することによって新たな問題が起こることは避けたい」と我々が感じていたことが導入に踏み切

れなかった最も大きな理由でした。

しかしながら、上記②にもありますようにこのコロナ禍でICT機器を使用せざるを得ない状況になり、これによってその便利さが非常に鮮明になりました。使い方によっては我々が考えている以上にメリットがあるということが分かり、教職員の中でもICT化に対する理解が大いに進んだと思います。もちろんプラス面ばかりではなく、今後も検討を続けなければならないこともありますが、それは走りながら考えよう、という前向きな思考になることができたのはやはりコロナにより実際にICT機器を使用する機会があったからだと思います。

（この1月に中学1年生から高校1年生までの全生徒のご家庭にクロームブックを購入していただきました（すでに購入済の家庭は除く）。4月に新中学1年生にも購入していただきますので、これにより令和3年度は新高校3年生を除いた全生徒が一人一台のクロームブックを持つことになります。校内環境の整備も完了しており、校内での使用も可能となっています。）

そしてこのコロナ禍にあって私が何よりも嬉しく感じたのは、①～⑯で触れさせていただいたように、時間割がその時の状況によって目まぐるしく変わったり、授業日であるにもかかわらずクラブ活動ができなかった期間が長かったりなど、非常にストレスの溜まる毎日であったにもかかわらず、生徒達が自分たちの気持ちを胸にしまい、学校の提示することを我慢強く受け入れてくれたということです。

コロナ禍において「出来ないこと」を挙げてそれを嘆き悲しむのではなく、とにかく「出来ること」を探してそれに積極的に取り組むという考えを持ってくれている生徒が多く、とても頼もしく感じました。この考え方が身についていれば、どんな状況に置かれたとしても後ろを向くことなく、常に前を向いて進むことができるでしょう。そんな生徒諸君を本郷の教員として本当に誇りに思います。

コロナウイルス感染症の混乱はまだ収束の兆しが見えず、今後もしばらくの間は生徒諸君に迷惑をかけると思いますが、本郷生はこの困難に怯むことなく今後も一歩一歩着実に進んでくれるということを確信しています。そして学校としましても、生徒・保護者そして同窓会の皆様のお力をお借りしつつチーム本郷としてこの困難を乗り切っていきたいと思います。

今後ともご支援のほどどうぞよろしくお願いいたします。

本郷高校 2021 年春大学入学試験合格実績

大学名	計	現役
国公立大学・大学校		
東京	9	8
京都	4	4
一橋	8	7
東京工業	13	11
北海道	7	5
東北	8	7
大阪	3	3
九州	1	1
神戸	1	1
旭川医科	1	1
岩手	1	1
秋田	1	1
山形	1	
筑波	7	6
群馬	2	1
埼玉	2	2
千葉	11	8
電気通信	3	2
東京医科歯科	1	
東京外国語	1	1
東京学芸	1	1
東京芸術	2	2
東京海洋	3	2
東京農工	3	2
横浜国立	8	7
新潟	2	2
金沢	2	1
山梨	1	
信州	3	3
静岡	1	1
岐阜	1	1
島根	1	1
鹿児島	1	1
高崎経済	1	
東京都立	4	4
都留文科	1	
大阪市立	1	1
九州歯科	1	
防衛大学校	1	1
防衛医科大学校	3	2
航空保安大学校	1	1

大学名	計	現役
私立大学		
早稲田	121	96
慶応義塾	83	70
上智	30	28
東京理科	132	110
明治	147	114
青山学院	25	20
立教	29	28
中央	78	60
法政	63	45
学習院	9	5
酪農学園	1	
流通経済	1	1
獨協医科	1	
国際医療福祉	7	4
獨協	8	5
文教	2	2
目白	1	
神田外語	1	1
淑徳	1	1
千葉工業	16	11
帝京平成	1	
東京情報	1	
麗澤	4	1
開智国際	1	1
亜細亜	3	1
北里	12	6
杏林	1	
工学院	5	4
國學院	8	1
国際基督教	1	
国士舘	1	
駒澤	13	12
芝浦工業	39	30
順天堂	3	2
昭和	4	2
昭和薬科	1	1
成蹊	8	7
成城	7	4
専修	13	8
大東文化	6	4
拓殖	1	

大学名	計	現役
私立大学		
玉川	1	1
多摩美術	4	3
帝京	9	5
東海	11	7
東京医科	3	2
東京経済	1	
東京工科	5	
東京慈恵会医科	7	5
東京造形	4	2
東京電機	11	9
東京農業	13	7
東京薬科	3	3
東邦	8	6
東洋	26	17
日本	79	41
日本医科	3	1
日本獣医生命科学	5	5
星薬科	2	2
武蔵	10	6
東京都市	15	9
武蔵野美術	5	4
武蔵野	2	
明治学院	8	6
明星	1	
東京工芸	3	3
麻布	3	3
神奈川	4	4
産業能率	1	1
横浜薬科	1	
帝京科学	1	1
岐阜聖徳学園	1	1
常葉	1	1
中京	1	1
京都芸術	2	1
同志社	2	1
立命館	8	2
大阪芸術	1	1
関西	2	2
近畿	5	2
関西学院	2	
久留米	1	
立命館アジア太平洋	1	1

（２０２１年４月３日現在）

退職教諭

数学科　西山 明彦 先生　　保健体育科　池之迫 臣 先生

本郷学園同窓会 会費納入者一覧

2021年（令和3年）
3月31日現在

卒業回期　氏名（敬称略）

中11 市川 雄一
中13 太田 恭二
橘 正道
中15 根本 卓光
宮本 幸雄
勝 敬二
中16 小永井 暹
古内 正禧
中17 佐藤 元徳
和気 修
阿出川 昭治
尾前 広
中18 今里 隆
大沢 善和
新井 保文
長谷川 忠也
森 正徳
中19 阿出川 義男
浅原 義久
下川 敬朗
高橋 實
野木 惣市
中20 鶴岡 俊雄
中島 敬太郎

橋本 公成
市川 恒雄
大屋 忠
大塚 康夫
佐藤 昌雄
田島 利男
宮本 良一
中21 柄澤 喜市
小林 國雄
外内 悦雄
堀井 幸次郎
中22 井筒 千秋
高2 櫻井 泰
瀬川 澄男
小倉 雅文
羽生 鉒佑
宮入 貞雄
高3 遠藤 亘良
北見 尹
坂田 実
長崎 一
石川 達夫
地曳 秀雄
根本 強
光安 伸夫
山口 洋司
山内 英夫
高4 佐々木 直剛
八嶋 政臣
高5 井沢 清
田畑 光利
山崎 利恭
高6 小椋 一

大西 美代智
柏村 喜徳郎
篠 喜三郎
霜越 佶
関 貞三
中村 義一
根立 光夫
松本 幸司
渡辺 昭義
市川 錦次郎
漆間 秀雄
奥村 茂
蔵田 尚
駒井 隆行
後藤 順夫
小林 金則
鈴木 惣一郎
高木 桂三
津久田 愛之助
寺田 栄一
中山 壽夫
香森 哲也
高7 秋元 幹夫
青木 輝男
石井 尚敏
鈴木 健
益川 雄治
宮崎 靖司
山内 周
上岡 延好
高橋 三郎
福原 信夫
高8 新澤 米次

古屋 勝正
藤巻 健三
南谷 修
渡邊 茂明
五十嵐 資幸
小幡 昌久
大野 俊広
木塚 順夫
小室 能広
長澤 秀幸
深澤 宏之
三村 孝一
高9 風間 幹雄
江原 森太郎
田辺 博昭
比企 正憲
島村 泰夫
田中 好明
高10 井上 栄三郎
泉澤 賢一
亀井 俊一
中河 秀行
林田 有弘
山崎 昇
青木 弘三
岡本 信也
小川 紘
上岡 光男
渡部 長幸
佐々木 範行
高12 市倉 洋一
飯田 典幸
大梶 勝英

亀井 忠雄
田島 輝夫
戸口 素男
西野 保博
向井 史朗
山本 達雄
木村 尤一
熊木 宏治
澁谷 成太
高好 俊一
竹村 義教
吉原 孝哉
伊奈 信行
川口 修三
久保 國男
高13 阿出川 信夫
相川 清
岡田 勲
大島 康臣
越路 往輝
田中 清弘
渡辺 則綱
明石 安邦
岡本 武勝
加毛 隆
方波見 茂
齊藤 毅
島村 正雄
中村 久
野間口 正機
山田 英昭
高14 芦原 健一
山口 俊章

池田 雅彦
江田 清
杉山 雅一
高15 新 安雄
倉田 勝義
笹岡 大
峯岸 桂介
森坂 展行
杉山 勝正
高田 隆義
高16 小原 治男
田村 邦光
上島 敏幸
小池 昭久
佐々木 邦雄
高17 中村 憲夫
山田 隆
佐藤 仁
辻内 健志
野田 祐二
四家 文憲
高18 浅井 俊一
石津 彰三
小倉 義雄
櫻井 利雄
田原 克人
三浦 淳二
吉尾 正照
倉持 文雄
小松 良栄
榊原 康夫
斉田 与四郎
根木 輝久

村井 文一
山際 幸雄
滝本 喜三
宮沢 正喜

高19
秋葉 和秀
稲垣 富雄
金子 敏雄
毛利 悦久
吉倉 幸信
石原 崇光
木下 茂男
下川 薫
中村 博
沼尻 卓
長谷川 実
若山 裕二郎
増山 恵一

高20
飯沼 誠次
梶 徳治
小林 基展
酒井 完治
関塚 正治
瀬崎 正憲
南原 義樹
松原 茂
内山 正敏
大塚 勝実
大野 英治
斎藤 盛泰
坂井 秀雄
櫻井 康二
千葉 正明
津田 隆

戸張 友晴
蛭田 要司
古川 和夫
古畠 英俊
町田 準一
矢代 順一
横堀 直人
小菅 邦雄
酒井 孝一
佐々木 正紀
橋田 隆

高21
小黒 満
小松 健介
杉山 利博
土屋 次雄
中田 守喜
早川 盛男
森田 議雄
磯部 雄二
遠藤 文章
大房 正明
黒杉 寿博
砂田 俊雄
杉山 敏行
鈴木 斉
吉原 実
豊田 康徳
野田 優明
山口 陽通

高22
石井 隆
上田 睦
遠藤 達哉
久保田 辰雄

小池 義明
柴田 秀利
白鳥 芳一
須藤 辰彦
赤井 健郎
瀬賀 春雄
高知尾 享
中野 二郎
岡村 光雄
蔵田 昌明
関 敏晴
田村 和夫

高23
押田 松児
須永 裕
田中 功
吉沢 清
新井 康友
太田 治
国玉 浩司

高24
関田 晃
澤村 時夫
進藤 久幸
田中 良一
中村 敬司
野田 悠二
松島 和己
村上 信夫

高25
井口 茂雄
石井 聖一
梅田 亨
内藤 照夫
山口 登
帰山 光弘

佐野 養一
坂井 成行
田島 秀雄
千野 邦雄
中田 宗喜
福田 嘉之
春日 貞男
栗山 孝治
佐久間 道雄

高26
庭野 毅
花島 良晴
松平 善明
稲田 俊和
笹沼 博之
柴 安弘
戸部 庄次
中田 久人
相模 明男
堀 義一

高27
稲垣 登
佐藤 吉伸
原田 俊幸
丸田 伸之
岩崎 充晃
小林 正美
鈴木 利一
高橋 伸治
戸張 力
石川 義和

高28
岡野 智彦
亀山 孝安
黒沢 邦夫
川俣 弘

福島 良章
山本 和弘
荒井 薫
井口 隆
神谷 秀行
小林 博貴
須崎 幸彦
須藤 博忠
馬島 善宏
松井 伸彦
田中 実

高29
伊東 史郎
菊池 雄一
石塚 実
泉 昇一
菅野 弘一
先崎 和延
高木 敬一
田中 和男
磯ヶ谷 満夫
今泉 清
小川 正太郎
川崎 信一
丹野 修辞
真鍋 勝俊
飯泉 彰裕
森 英彦

高30
酒井 正喜
川﨑 雅弘
酒井 正喜

高31
石坪 英貴
富永 浩伸
竹井 浩一

帍溪 文有
橋本 尚弘
吉田 法夫
勝田 隆久

高32
石井 伸一
石原 剛次
宇田川 久雄
斎藤 政嗣
竹内 博輝
原 哲夫
三友 宏樹
石倉 均
清水 一郎
永堀 義秀
伊東 利晴
板津 茂幸
米沢 潤

高33
青木 和夫
奥田 十善
梶原 拓也
杉野 正純
中原 泰彦
中野 一美
並木 成中
天沼 嘉章
礒田 浩之
岩田 実
遠藤 千秋
小口 邦夫
高橋 秀明
滝本 学
西 洋一
福島 浩

本郷 善紀
山﨑 幸一
吉田 浩久
吉田 秀樹
宇賀神 茂
齋藤 卓

高34
秋元 康夫
明妻 正道
高橋 隆幸
林 俊明
平澤 淳
宮崎 雄一
小林 晋一郎
遠矢 工
中川 孝行
藤原 靖弘
岩瀬 俊一

高35
藤本 由紀夫
小池 武次
江原 啓之
野口 貴洋
鈴木 徹
山岡 和彦
江利川 吉彦
諏訪 勝彦
竹野谷 茂
戸張 元
福田 貴之

高36
粂谷 信久
西廣 宗彦
大沢 弘宣
鈴木 貴生
直井 正人

渡邊 正一
美谷島 総
加藤 吉郎
下鳥 豊
古賀 光裕
鴨下 秀治
杉本 淳
田邊 賢一
松本 圭一
齋藤 卓也
増宮 智徳
藤原 慎二

高37
荒井 康雄
前沢 智敏
丸山 弘文
小野寺 和彦
根岸 延存
小澤 秀昭
城 和夫
矢島 俊之
内山 建造
佐々木 晋一
横川 高樹

高38
吉川 正博
山田 史朗
守屋 健一
木村 明
梶 晋介
岩城 俊一
楠本 健輔
大野 秀樹
中尾 政則
奥村 直和

高39
上原 孝治
遠藤 雅
矢嶋 実
石川 雅博
春日 真人
篠原 史孝
小島 丈廣

高40
金子 純一朗
日石 博之
重川 孝志
上田 一人
小林 弘和
浅見 一浩

高41
小掛 慎太郎
長田 祐司
井上 貴行
小林 俊明
紙谷 淳一
高瀬 知博
川島 雅之
田中 英俊
林 慎也
小松 直人
関口 隆之

高42
花田 憲彦
田村 伸也
佐藤 達也
髙山 慎
田村 裕一
雨宮 真吾
吉川 秀一
石本 健太郎
澁屋 史明

湯浅 健
本井 利生
藤原 潤一
塩家 吹雪

高43
田川 聖
中村 歩希
吉田 史秋
今井 孝幸
伊藤 正規
栗原 一弥
戸塚 太一
畑 聡志
上原 弘行
木村 秀樹
入谷 順
添田 浩史
和田 洋一郎
今井 仁
野口 拓栄
南尾 晋司
藤田 清志

高44
相臺 志浩
渡辺 善之
久保村 豊
櫻井 健象
中村 雅知
守部 直文
藤田 啓
津田 達広
川上 慎太郎
佐藤 一成

高45
新井 洋匡
野田 顕彦

万仲 治夫
近藤 正徳

高46
高木 功介
則松 計征
原 聡
細沼 慎一郎
涌井 嘉人

高
河南 晋

高47
青江 覚峰
山崎 陽一
佐藤 良
香取 範充

高48
板橋 寿和
稲生 雄一郎
斉藤 誠
杉下 和行
増田 健次
中村 織雄

高49
堀 洋平
安井 督
町田 健
立川 嘉久
林 誠吾

高50
新村 光央
豊川 浩成
宇田川 太
綱島 宗介

高51
梶野 貴経
滝澤 一晴
中澤 利幸
佐藤 英明
新井 亮輔
堀越 亮

山本 健太郎
保森 快典
古島 剛
若西 良介
宇田 順也
藤井 真俊

高52
向井 崇平
千田 昌宏
星野 泰志
上村 敦
藤本 耕平
鈴木 慎吾
猪越 正直
坂本 泰宏

高53
齊藤 秀雄
小島 将敬
中井 秀昌
小藤 寛之
中村 旭
根岸 達哉
高辻 紘之

高54
高橋 祐磨
小泉 孝人
土橋 篤仁
川井 絢矢
正木 健彦
大澤 思朗
中村 健一
大森 秀昭
堀越 周
和田 敏治
西島 章夫
小泉 信吾

高55
新村　佳央
大河内　伸剛
塚田　匡
大塚　真弘
佐藤　裕明

高56
高井　俊宏
西村　利来
川田　大助
小高　真樹
木内　健義
今橋　貴
船渡川　哲
菅原　一輝
卯坂　潤一郎
山本　崇史
江利川　尭

高57
國吉　光裕
寺嶋　一祐
石村　賢
新見　陽介
宮川　元
藤方　洋平

高58
上田　圭介
木下　和俊
池田　一樹
米山　俊輔
秋本　悠樹
梅田　翔太

高59
鷲澤　仁志
金屋　春樹
小泉　隼人
廣瀬　貴充
山本　隆一朗
林　輪太郎
松本　康佑
吉實　大輔
大野　太郎

高60
浅野　泰寛
藤井　翔太郎
小澤　駿一郎
中山　雄平
山本　陸
福田　修也
久保　展昭
木下　智大
吉田　玲生
正木　直哉
由利　卓哉
林　建人

高61
小穴　泰裕
町田　修
杉浦　貴則
西田　直紀
渡邊　貴之
大竹　正紘
森下　弘基
川野　雄平
志村　暢紀
田中　慎也
村田　貴輝

高62
伊藤　健太
南方　宙大
大澤　亜希良
兵頭　義章
福嶋　大樹
植田　耕平
金　晟徹
平田　雅俊
宮田　貴弘
青木　昂志良
小林　祐樹
山田　凌輔
川島　尚哉

高63
三好　亮麻
木塚　康太
津内　直人
西山　双輝
木原　健裕

高64
矢吹　崇明
河野　遼
石橋　拓也
望月　秀人
内藤　亮
西山　朔
辺見　幸大
松本　一起
梅田　諒太
横澤　智大
櫻井　幹生
申　俊利
宮原　正知
角田　博之

高65
川崎　浩平
藤森　良太
井上　智皓
山崎　裕之
松永　啓佑
須藤　大介
新井　達也
中谷　惇
田口　雄飛

高66
近藤　直人
国武　佑亮
ドル　有生
古谷　龍一
平井　大介
佐藤　秀行

高67
藤田　大輝
遠藤　雅之
飯島　穣
石川　氷介
立木　拓生
松尾　洋紀
平川　壮太
富樫　和貴
青木　瑞樹
大嶋　優介
丹羽　祐貴
山岸　清剛
鈴木　丈也

高68
安田　直樹
芹澤　礼人
髙橋　修明
植松　洋樹
木村　洋一
中野　幸英
加藤　隼人
森　可智
緑川　響介
山浦　悠一郎
萩原　和貴
佐々木　魁
鈴木　貴裕
岩井　惇一郎
光井　直哉
北村　俊徳
菅谷　昌久
飯田　翔悟
桂　彰寿

高69
森　郁登
立花　光陽
岸　稜人
川上　貴秀
大澤　央
大西　倫太郎
畠中　晃平

高70
小林　拓生
山口　翔
小山　乃瑠
木下　祐志
宮本　英俊
生駒　琳太郎
野澤　真伸
野澤　勇祐
槇枝　諒祐
脇本　智郎
青柳　慶人
高田　賢
金光　理玖
栗林　凜
林　怜央
古田　耀一
佐土原　京也
神野　広希
嶽本　慶一郎
清水　啓太
岩渕　友哉
光井　友哉
井田　光祝
林　凜太朗
瀬川　武志
釜田　森至
梶原　龍之佑

高71
島田　耕成
岩佐　文哉
生稲　直希
倉田　悠生
古林　弘行
佐藤　脩歩
高橋　優輔
外山　廉
橋本　千聖
廣瀬　由明
南谷　優太
安田　壮佑
山田　雅也
田澤　宏和
沼上　祐磨
緑川　詠介
伊藤　竜輔
白居　幸希

高72
杉浦　旭
宗岡　拓未
松谷　佳享
家田　智也
辻　大翔
山北　啓吾
川瀬　知基

細谷　源二朗
奈良　薫明
嶋津　瑛人
古田　裕一
松岡　弘大
鈴木　成
佐藤　良
佐野　亨
福原　玄

金子　尚貴
内山　敬太
向野　樹
瀬川　雄史
直井　悠人
桝谷　連太郎
六郷　雄太
岸　史弦

回期等　不明者
ヨシカワ　マコト
スズキ　ヤスヨシ198
19670050ワタツカ
スズキ　ヒロユキ
ヤマザキ　タケシ
レイワ2ネンソツ　キムラ
キクチ　マサミ
スズキ　トシヒロ199
ヒラノ　タカユキ

納入者数　809人

※万全を期したつもりですが、万が一、お名前の漏れや誤字、脱字などの間違いがありましたらご容赦ください。FAXでご一報いただければ幸甚です。

FAX　03-3917-0007

訃報

謹んでご冥福をお祈り致します

同窓会にご連絡のあった方を掲載しております

中9　徳田　喜一郎
中10　藪崎　和民
中11　八杉　繁
中12　芹沢　浩寿
中13　橘　正道
中16　滝原　達司
野尻　利祐
中17　鵜沢　謹爾
中18　奥山　淳
菩提寺　悦郎
中19　玉川　昭
長谷川　広司
室久　敏三郎
中20　菊入　喜三郎
三好　仁一
田島　利男
中21　石井　勉
高3　小野　直博
高5　後藤　幸一
高8　井嶋　建治
高9　田辺　博昭
高11　赤石　光政
高12　小早川　正幸
飯田　典幸
喜多　雄三
高19　村田　隆一
高25　阿部　益実
高29　堀川　有二
高31　渡辺　一功
高32　神宮　義輝
高村　一歳
高33　木津　富士夫
菅野　博行
高34　廣川　和久
高38　二谷　興一
高39　粟澤　敏彦
高62　泉田　洋介

1980年＝55年卒業生（高校32回生）

「本郷高校55会」

「還暦の集い」のお知らせ

55歳時の第1回同期会（2017．2．25）に続き、令和3年2月27日に計画していた「還暦の集い」は、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止しましたが、改めて別記のとおり開催します。皆様にはふるってご出席くださいますようお願い申し上げます。

記

日　時
令和4年（2022年）2月26日（土）
12時半～

場　所
三菱養和会（2F）パルテール・パーティールーム

内　容
記念撮影・学校見学・懇親会

会　費
5千5百円

実行委員長
米澤　潤

問い合せ先
090-3258-6498

銀友
第50号　2021年5月1日発行　本郷学園同窓会

本郷学園校歌

むかしは植樹の名どころ染井
とりわけ紅葉の錦に知らる
今は学園ここに開けて
国の柱の苗木を育つ
ああわれら　誇りの本郷学園

ああ柱苗木の青年われら
つとめば未来に何えせざらむ
さらば固めよ処世のもとい
こころは剛毅に身は強健に
ああわれら　誇りの本郷学園

作詞　坪内逍遥
作曲　信時　潔

発行責任者　南谷　修　〒170-0003　東京都豊島区駒込4-11-1　本郷学園内
同窓会へのお問い合わせはFAXにてお受けします。FAX：03-3917-0007